－　　－　　－

科目区分	心理学科専門教育科目						
科目名	医療と臨床心理学／病院臨床心理学						
担当教員	唐津　尚子						
学期	後期／2nd　semester	曜日・時限	水曜4	配当学年	3～4	単位数	2.0

授業のテーマ	臨床心理学的知識を医療現場で活かしていく方法について学ことを通じて、他者理解・自己理解を促進する。
授業の概要	臨床心理学を実践する現場として、病院もその一つに挙げられる。「身体の不調」を訴えている方は、同時に不安や苦悩、辛さや悲しみを抱えていることが多いことだろう。また、「身体の不調」自体の背景に心理社会的背景を持っている場合もあるだろう。したがって、来院される方対して円滑で効果的な治療を進めていくために、臨床心理学的アプローチが重要な意味を成す場面も多くあると考えられる。 本講義においては、病院に来院される方に対し、臨床心理学的アプローチを行っていくことを視野に入れ、具体的に用いられる方法についての基礎を学習していく機会にしたいと思っている。また、心理士が病院で仕事をするにあたって心がけるべき言動・姿勢・態度や患者様・病院スタッフと関わっていく上で意識するべき点などについても触れていきたいと考えている。
到達目標	・ストレスと疾患との関連について理解する ・医療現場で活用する代表的な臨床心理学的知識や方法論について理解する ・自分自身や周囲の人々のメンタルヘルスについて考える
授業計画	第１回：病院臨床心理学…講義についての概要 第２回：医療現場において必要とされる心理職について 第３回：ストレスについて　①ストレスについて知る 第４回：ストレスについて　②ストレスと疾患との関連 第５回：ストレスについて　③ストレスへの対処と臨床心理 第６回：こころと脳　心身相関 第７回：医療現場と臨床心理　交流分析① 第８回：医療現場と臨床心理　交流分析② 第９回：医療現場と臨床心理　認知行動療法① 第10回：医療現場と臨床心理　認知行動療法② 第11回：医療現場と臨床心理　そのほかの心理療法 第12回：医療現場と臨床心理　心理アセスメント 第13回：メンタルヘルス 第14回：講義全体の整理とまとめ 第15回：講義の理解度を確認する…試験
授業外における学習（準備学習の内容）	・授業中に説明される専門用語などについて、わからなければもちろんどんどん質問していただきたいところであるが、自分自身で調べる姿勢を持っていただきたい。 ・新聞やテレビその他情報媒体を通じて取り上げられる、日本のメンタルヘルスの現状について、情報収集していただきたい
授業方法	適宜資料を提示する。資料に沿って講義を行う。自身でいろんな心理尺度を使って、自己の現状を把握してもらうなども行っていく。
評価基準と評価方法	平常点：30%　　ミニレポート：10%　　定期試験：60%　で評価する。
教科書	特になし。参考文献に関してはその都度、講義中に紹介する。
参考書	金芳堂「プラクティカル　医療心理学」飯田紀彦　編集 その他参考文献はその都度、講義中に紹介する。

－　　－　　－

科目区分	心理学科専門教育科目						
科目名	英語で読む心理学A						
担当教員	久津木　文						
学期	前期／1st　semester	曜日・時限	木曜1	配当学年	3	単位数	2.0

授業のテーマ	心理学系大学院入試の専門英語対策。
授業の概要	大学院進学には英文での専門的文章がある程度読める能 力が必要である。よって、この授業では、心理学の基礎的な内容を英語で読むことを中心に進めていく。
到達目標	大学院入試の心理の専門英語を読みこなせるようになる。
授業計画	1. オリエンテーション 2. 心理学のアプローチ 3. 心理学における問題 4. Cognitive psychology: origins of memory 5. Cognitive psyhology: STM, LTM and duration 6. Cognitive psychology: nature of memory 7. Cognitive psychology: working memory 8. Developmental psychology: Early social development 9. Developmental psychology: attachment 10.Developmental psychology: Bowlby's theory 11.Developmental psychology: types of attachment 12.Perception:Top Down process 13.Perception: Bottom up process 14.Perception: Development 15.Perception: Nature-Nuture debate
授業外における学習（準備学習の内容）	英文で扱う内容は日本語で十分わかっていないと理解できない。よって、英文をただ機械的に訳す作業だけにとらわれず、扱われている内容を日本語で十分学習していくことが必須である。
授業方法	論文講読　発表形式
評価基準と評価方法	課題（２０％）、授業準備・ディスカッション（８０％）
教科書	
参考書	

－　　－　　－

科目区分	心理学科専門教育科目						
科目名	英語で読む心理学B						
担当教員	久津木　文						
学期	後期／2nd　semester	曜日・時限	木曜1	配当学年	3	単位数	2.0

授業のテーマ	心理学系大学院入試の専門英語対策としての授業。
授業の概要	大学院進学には英文での専門的文章がある程度読める能 力が必要である。よって、この授業では、心理学の基礎的な内容を英語で読むことを中心に進めていく。
到達目標	大学院入試の専門英語問題が解けるようになる、英語の論文に対する苦手意識を軽減する。
授業計画	1.オリエンテーション 2.Perception: Face recognition & Agnosia 3.Learning: Classical conditioning 4.Learning: Operant conditioning 5.Learning: Conditioning and behavior of animals 6.Social psychology: Conformity 7.Social psychology: Conformity to majority 8.Social psychology: Criticism and evaluation of conformity studies 9.Social psychology: Obedience to authority 10.Psychopathology: Definitions of abnormalities 1 11.Psychopathology: Definitions of abnormalities 2 12.Psychopathology: Biological approach 13.Psychopathology: Psychodynamic approach 14. Psychopathology: Behavioral approach 15. Psychopathology: Cognitive approach
授業外における学習（準備学習の内容）	英文で扱う心理学のトピックや内容を日本語でも十分把握しておくことが必須。
授業方法	論文講読　発表形式
評価基準と評価方法	課題（２０％）、授業準備・ディスカッション（８０％）
教科書	
参考書	

－　　－　　－

科目区分	心理学科専門教育科目						
科目名	カウンセリング基礎演習						
担当教員	安達　圭一郎						
学期	前期／1st　semester	曜日・時限	水曜1	配当学年	1	単位数	2.0

授業のテーマ	カウンセリング技法の基礎について演習を行う
授業の概要	ロールプレイ（役割演技）を通して、援助的なコミュニケーションの方法を体験学習する。1対1でのカウンセリング場面を想定し、クライエントの「自信・元気・可能性・安心感」を引き出すための方法を学ぶ。
到達目標	カウンセリング技法の基礎について、体験的に理解する。
授業計画	第1回　授業内容と進め方についてオリエンテーション・グループ分け（自己紹介） 第2回　ロールプレイと討論 第3回　傾聴技法について（講義） 第4回　ロールプレイ1-1　傾聴 第5回　ロールプレイ1-1　傾聴 第6回　グループ報告とディスカッション、安全空間について（講義） 第7回　ロールプレイ2-1　ジョイニング 第8回　ロールプレイ2-1　ジョイニング 第9回　グループ報告とディスカッション、質疑応答、補足説明 第10回　ロールプレイ3-1　感情の支持 第11回　感情表出の意義について（講義） 第12回　ロールプレイ3-2　感情の支持 第13回　ロールプレイ3-3　感情の支持 第14回　グループ報告とディスカッション、質疑応答、補足説明 第15回　まとめとレポートの作成
授業外における学習（準備学習の内容）	こうした技法が実際の臨床場面でどのように活用されているのか、書籍などを通じて理解を深めてほしい。
授業方法	演習中心でおこなう。
評価基準と評価方法	平常点60%（遅刻・欠席については減点の対象になる）、ロールプレイへの取り組み30%、レポート10%
教科書	
参考書	

－　　－　　－

科目区分	心理学科専門教育科目						
科目名	カウンセリング基礎演習						
担当教員	安達　圭一郎						
学期	後期／2nd　semester	曜日・時限	水曜1	配当学年	1	単位数	2.0

授業のテーマ	カウンセリング技法の基礎について演習を行う
授業の概要	ロールプレイ（役割演技）を通して、援助的なコミュニケーションの方法を体験学習する。1対1でのカウンセリング場面を想定し、クライエントの「自信・元気・可能性・安心感」を引き出すための方法を学ぶ。
到達目標	カウンセリング技法の基礎について、体験的に理解する。
授業計画	第1回　授業内容と進め方についてオリエンテーション・グループ分け（自己紹介） 第2回　ロールプレイと討論 第3回　傾聴技法について（講義） 第4回　ロールプレイ1-1　傾聴 第5回　ロールプレイ1-1　傾聴 第6回　グループ報告とディスカッション、安全空間について（講義） 第7回　ロールプレイ2-1　ジョイニング 第8回　ロールプレイ2-1　ジョイニング 第9回　グループ報告とディスカッション、質疑応答、補足説明 第10回　ロールプレイ3-1　感情の支持 第11回　感情表出の意義について（講義） 第12回　ロールプレイ3-2　感情の支持 第13回　ロールプレイ3-3　感情の支持 第14回　グループ報告とディスカッション、質疑応答、補足説明 第15回　まとめとレポートの作成
授業外における学習（準備学習の内容）	こうした技法が実際の臨床場面でどのように活用されているのか、書籍などを通じて理解を深めてほしい。
授業方法	演習中心でおこなう。
評価基準と評価方法	平常点60%（遅刻・欠席については減点の対象になる）、ロールプレイへの取り組み30%、レポート10%
教科書	
参考書	

－　　－　　－

科目区分	心理学科専門教育科目						
科目名	家族心理学						
担当教員	土肥　伊都子						
学期	後期／2nd　semester	曜日・時限	火曜3	配当学年	3～4	単位数	2.0

授業のテーマ	現代日本社会における家族の心理の理解
授業の概要	現代日本の家族は，社会と密接な関係を保ちつつ変化している．たとえば，少子化，晩婚化，離婚の増加，母親の就労，高齢化などである．本講義では，夫婦関係，親子関係を中心に，それらの現代的特徴と心理的影響について学習する．
到達目標	家族の抱える問題は，家族内だけではなく現代社会と密接に関連することを理解すること。
授業計画	第１回　オリエンテーション　家族の定義，同一性，機能 第２回　生殖環境，家族アイデンティティ 第３回　夫婦の損得勘定 第４回　子どもの価値，睡眠習慣 第５回　現代の家意識 第６回　食生活からみた家族関係 第７回　ドメスティック・バイオレンス 第８回　ビデオ　山田太一の家族の肖像 第９回　コミュニケーションの文化差 第１０回　ワークライフ・バランス，多重役割 第１１回　子どもの問題行動と家族関係 第１２回　思秋期，老年期の家族関係 第１３回　福祉と家族 第１４回　質疑応答 第１５回　後期試験
授業外における学習（準備学習の内容）	授業中に紹介する参考文献や，心理学科のサイトの推薦図書を自主的に読む。 授業中に配布した資料を見直して，理解を深める。
授業方法	講義形式
評価基準と評価方法	平常点３０％，　定期試験７０％
教科書	プリントを配布する
参考書	「家族心理学」　榎本博明(編著)　おうふう　2009

－　　－　　－

科目区分	心理学科専門教育科目						
科目名	学校と臨床心理学／学校臨床心理学						
担当教員	黒崎　優美						
学期	後期／2nd　semester	曜日・時限	火曜2	配当学年	3～4	単位数	2.0

授業のテーマ	教育的課題への臨床心理学的アプローチによる分析と理解
授業の概要	目的：　学校で起きているさまざまな問題について、臨床心理学的な観点から分析し、理解や援助のあり方を探ります。 概要：　毎回具体的な教育的課題をテーマとして取り上げ、理論的な側面からだけでなく、臨床的素材やスクールカウンセラーの実践等についても紹介しながら理解を深めます。
到達目標	学校で起きている諸問題について理解を深めるだけでなく、児童・生徒として小・中・高等学校に所属していた過去の自分自身、そして大学という教育機関に学生として所属している現在の自分自身について考え、学び、発見し、成長することを目指します。
授業計画	第１回　「学ぶこと」への臨床心理学的接近(1)　～欲動と心的構造論～ 第２回　「学ぶこと」への臨床心理学的接近(2)　～思考発達とその阻害要因～ 第３回　「不登校」への臨床心理学的接近(1)　～不登校の歴史と現状～ 第４回　「不登校」への臨床心理学的接近(2)　～不登校認識の変遷と課題～ 第５回　「不登校」への臨床心理学的接近(3)　～個人的要因～ 第６回　「不登校」への臨床心理学的接近(4)　～集団的要因～ 第７回　さまざまな教育課題への臨床心理学的接近(1)　～学力低下、いじめ等～ 第８回　さまざまな教育課題への臨床心理学的接近(2)　～性的逸脱、学級崩壊等～ 第９回　さまざまな教育課題への臨床心理学的接近(3)　～発達障がいと特別支援教育～ 第10回　さまざまな教育課題への臨床心理学的接近(4)　～保護者対応の現状と課題～ 第11回　「学校不適応」への臨床心理学的接近(1)　～学校不適応感と学校不適応観～ 第12回　「学校不適応」への臨床心理学的接近(2)　～児童・生徒のストレスとメンタルヘルス～ 第13回　「学校不適応」への臨床心理学的接近(3)　～教師のストレスとメンタルヘルス～ 第14回　スクールカウンセラーの仕事　～生徒指導と教育相談のあいだ～ 第15回　まとめと試験
授業外における学習（準備学習の内容）	授業前学習：　次回のテーマに関する課題を出すことがあります。 授業後学習：　授業で紹介する参考文献を読みさらに理解を深めて下さい。また、授業内容や参考文献から自分なりに理解した内容や感じたことなどを文章にまとめてください。試験のとき役立ちます。
授業方法	基本的に講義形式ですが、毎回テーマに関わる作業を行い、授業レポートとして提出してもらいます。
評価基準と評価方法	授業レポート（出席点を含む）　40%、試験 60%
教科書	プリントを配布します。
参考書	適宜紹介します。

－　　－　　－

科目区分	心理学科専門教育科目						
科目名	学習心理学／学習心理学I						
担当教員	吉野　俊彦						
学期	後期／2nd　semester	曜日・時限	月曜2	配当学年	2	単位数	2.0

授業のテーマ	人間を含む動物が，それぞれの環境で適応するための手段として学習がある。経験を通じて行動や考え方を変化させる学習の基礎過程を扱う。
授業の概要	人間の行動のルーツを考えたとき，その多くが学習過程に依存していること気づく。人間が主体的に環境，とりわけ周囲の人間との関わりの中で様々な行動を獲得し，抑制している過程を説明するためには2つの条件づけを理解することが必須である。本講義では，行動分析学に軸足を置きながら，行動のメカニズムを探っていく。
到達目標	人間の行動様式を支えているものが学習であることを理解する。 2つの条件づけの基礎過程を理解する。 一人ひとりの日常的な行動を行動分析学の視点から見つめられるようになる。
授業計画	1. オリエンテーション: 学習について学ぶ 2. 様々な行動と学習との関わり: 系統発生と個体発生 3. オペラント条件づけ1: 行動とは何か・行動を説明する 4. オペラント条件づけ2: 強化(1) 5. オペラント条件づけ3: 強化(2) 6. オペラント条件づけ4: 消去 7. オペラント条件づけ5: 弱化 8. オペラント条件づけ6: 阻止の随伴性とルール支配行動 9. パヴロフ型条件づけ1: 獲得過程(興奮性条件づけ) 10. パヴロフ型条件づけ1: 馴化と鋭敏化 11. パヴロフ型条件づけ2: 消去と自然的回復 12. パヴロフ型条件づけ3: 情報獲得の基礎過程としてのパヴロフ型条件づけ 13. 学習の応用1: 行動分析学と認知・感情 14. 学習の応用2: 行動療法・応用行動分析・行動マネジメント 15. まとめ
授業外における学習（準備学習の内容）	原則として毎時間小テストを行ない，また翌週の授業で扱うテーマについての宿題を出す。そのような準備ができていることを前提として授業を進めるから，参考書を十分に読み，自分の頭で考えて，理解を深めておくことが必要である。
授業方法	授業は以下の3部から構成される。 まず，前回の授業で扱ったテーマについての小テストを行う。次に，宿題として考えてきてもらった課題を使ってのワークとディスカッションを行なう。最後にワークとディスカッションをもとにした解説を加えて，次回の授業で扱うテーマについての宿題を発表する。 それぞれのトピックを解説していく。但し，日常生活に深く関わると考えられるものに限定して，適宜教科書に含まれないトピックも解説する。パワーポイントを使用した講義形式を採るが，より理解を深めるために，学生同士で考える時間を設ける。
評価基準と評価方法	毎時間の小テスト(各5点×15回 = 75点)，ワークやディスカッションへの参加度(25点)。単に出席しているかでなく積極的に参加しているかどうか，予習・復習によって内容を理解しているかどうかを評価する。
教科書	指定しない。プリントを配布する。
参考書	体系的な理解のため，また予習復習のために，各自で参考書で学んでほしい。 実森正子・中島定彦 (2000). 学習の心理: 行動のメカニズムを探る　サイエンス社 杉山尚子 (2005).　行動分析学入門 ―ヒトの行動の思いがけない理由 集英社新書 島宗理 (2010).　人は、,なぜ約束の時間に遅れるのか　素朴な疑問から考える「行動の原因」 光文社新書

－　　－　　－

科目区分	心理学科専門教育科目						
科目名	基礎演習A／心理学調査法I						
担当教員	久津木　文						
学期	前期／1st　semester	曜日・時限	月曜2	配当学年	1	単位数	2.0

授業のテーマ	心理学への関心を形にしよう
授業の概要	これから大学で「心理学」を学んでいくに当たって、心理学への関心を深め、自らが関心をもったテーマを発表資料として形にすることを目的とした授業です。具体的には、性格に関する文献講読を通じて心理学とは何か、心理学の考え方・調査方法を学び、自分で調べてみたいことを考えます。そして、後期「基礎演習Ｂ」で作成する質問紙のテーマを決定し、パワーポイント資料作成と発表を行い、自分の考えたことを人に伝える力を養います。
到達目標	学生自身の興味を、心理学の概念、枠組みを用いて考えられるようになること
授業計画	第1回　授業のオリエンテーションと自己紹介 第2回　図書館オリエンテーション 第3回　本を読む 第4回　性格に関する本を読む（１） 第5回　性格に関する本を読む（２） 第6回　性格に関する本を読む（３） 第7回　読んだ本の発表 第8回　性格を調べる 第9回　質問紙テーマの決定（１）－問いと仮説の作成 第10回 質問紙テーマの決定（２）－問いと仮説の発表とディスカッション 第11回 発表資料の作成（１）－パワーポイントの使い方 第12回　発表資料の作成（２）－パワーポイントの使い方 第13回　発表資料の作成（３）－作業，ファイル提出 第14回　個人発表（１） 第15回　個人発表（２）
授業外における学習（準備学習の内容）	性格に関する心理学の著書を自発的に読む
授業方法	演習
評価基準と評価方法	授業での課題提出など平常点60%，授業態度20%，発表資料と発表20%
教科書	
参考書	

－　　－　　－

科目区分	心理学科専門教育科目						
科目名	基礎演習A／心理学調査法I						
担当教員	黒崎　優美						
学期	前期／1st　semester	曜日・時限	月曜2	配当学年	1	単位数	2.0

授業のテーマ	心理学への関心を形にしよう
授業の概要	これから大学で「心理学」を学んでいくに当たって、心理学への関心を深め、自らが関心をもったテーマを発表資料として形にすることを目的とした授業です。具体的には、性格に関する文献講読を通じて心理学とは何か、心理学の考え方・調査方法を学び、自分で調べてみたいことを考えます。そして、後期「基礎演習Ｂ」で作成する質問紙のテーマを決定し、パワーポイント資料作成と発表を行い、自分の考えたことを人に伝える力を養います。
到達目標	学生自身の興味を、心理学の概念、枠組みを用いて考えられるようになること
授業計画	第1回　授業のオリエンテーションと自己紹介 第2回　図書館オリエンテーション 第3回　本を読む 第4回　性格に関する本を読む（１） 第5回　性格に関する本を読む（２） 第6回　性格に関する本を読む（３） 第7回　読んだ本の発表 第8回　性格を調べる 第9回　質問紙テーマの決定（１）－問いと仮説の作成 第10回 質問紙テーマの決定（２）－問いと仮説の発表とディスカッション 第11回 発表資料の作成（１）－パワーポイントの使い方 第12回　発表資料の作成（２）－パワーポイントの使い方 第13回　発表資料の作成（３）－作業，ファイル提出 第14回　個人発表（１） 第15回　個人発表（２）
授業外における学習（準備学習の内容）	性格に関する心理学の著書を自発的に読む
授業方法	演習
評価基準と評価方法	授業での課題提出など平常点60%，授業態度20%，発表資料と発表20%
教科書	
参考書	

－　　－　　－

科目区分	心理学科専門教育科目						
科目名	基礎演習A／心理学調査法I						
担当教員	土肥　伊都子						
学期	前期／1st　semester	曜日・時限	月曜2	配当学年	1	単位数	2.0

授業のテーマ	心理学への関心を形にしよう
授業の概要	これから大学で「心理学」を学んでいくに当たって、心理学への関心を深め、自らが関心をもったテーマを発表資料として形にすることを目的とした授業です。具体的には、性格に関する文献講読を通じて心理学とは何か、心理学の考え方・調査方法を学び、自分で調べてみたいことを考えます。そして、後期「基礎演習Ｂ」で作成する質問紙のテーマを決定し、パワーポイント資料作成と発表を行い、自分の考えたことを人に伝える力を養います。
到達目標	学生自身の興味を、心理学の概念、枠組みを用いて考えられるようになること
授業計画	第1回　授業のオリエンテーションと自己紹介 第2回　図書館オリエンテーション 第3回　本を読む 第4回　性格に関する本を読む（１） 第5回　性格に関する本を読む（２） 第6回　性格に関する本を読む（３） 第7回　読んだ本の発表 第8回　性格を調べる 第9回　質問紙テーマの決定（１）－問いと仮説の作成 第10回 質問紙テーマの決定（２）－問いと仮説の発表とディスカッション 第11回 発表資料の作成（１）－パワーポイントの使い方 第12回　発表資料の作成（２）－パワーポイントの使い方 第13回　発表資料の作成（３）－作業，ファイル提出 第14回　個人発表（１） 第15回　個人発表（２）
授業外における学習（準備学習の内容）	性格に関する心理学の著書を自発的に読む
授業方法	演習
評価基準と評価方法	授業での課題提出など平常点60%，授業態度20%，発表資料と発表20%
教科書	
参考書	

－　　－　　－

科目区分	心理学科専門教育科目						
科目名	基礎演習A／心理学調査法I						
担当教員	待田　昌二						
学期	前期／1st　semester	曜日・時限	月曜2	配当学年	1	単位数	2.0

授業のテーマ	心理学への関心を形にしよう
授業の概要	これから大学で「心理学」を学んでいくに当たって、心理学への関心を深め、自らが関心をもったテーマを発表資料として形にすることを目的とした授業です。具体的には、性格に関する文献講読を通じて心理学とは何か、心理学の考え方・調査方法を学び、自分で調べてみたいことを考えます。そして、後期「基礎演習Ｂ」で作成する質問紙のテーマを決定し、パワーポイント資料作成と発表を行い、自分の考えたことを人に伝える力を養います。
到達目標	学生自身の興味を、心理学の概念、枠組みを用いて考えられるようになること
授業計画	第1回　授業のオリエンテーションと自己紹介 第2回　図書館オリエンテーション 第3回　本を読む 第4回　性格に関する本を読む（１） 第5回　性格に関する本を読む（２） 第6回　性格に関する本を読む（３） 第7回　読んだ本の発表 第8回　性格を調べる 第9回　質問紙テーマの決定（１）－問いと仮説の作成 第10回 質問紙テーマの決定（２）－問いと仮説の発表とディスカッション 第11回 発表資料の作成（１）－パワーポイントの使い方 第12回　発表資料の作成（２）－パワーポイントの使い方 第13回　発表資料の作成（３）－作業，ファイル提出 第14回　個人発表（１） 第15回　個人発表（２）
授業外における学習（準備学習の内容）	性格に関する心理学の著書を自発的に読む
授業方法	演習
評価基準と評価方法	授業での課題提出など平常点60%，授業態度20%，発表資料と発表20%
教科書	
参考書	

－　　－　　－

科目区分	心理学科専門教育科目						
科目名	基礎演習B／心理学調査法II						
担当教員	久津木　文						
学期	後期／2nd　semester	曜日・時限	月曜2	配当学年	1	単位数	2.0

授業のテーマ	調べて分析し、伝えよう
授業の概要	心理学の調査方法でもっともよく用いられる質問紙調査について、簡単な質問紙を作成、実施、分析しながら学ぶことを目的とした授業です。前期の「基礎演習Ａ」で形にした心理学への関心をもとに「質問紙」を作成し、質問紙調査で得たデータを、Excelを用いて分析します。そして、その結果を形式の整った心理学レポートにしながらレポートの書き方について学びます。最後に、調査結果を発表します。
到達目標	学生自身の興味を、心理学の方法を用いて解明できるようになること
授業計画	第1回　質問紙の作成（１） 第2回　質問紙の作成（２） 第3回　質問紙の作成（３） 第4回　質問紙への回答 第5回　データの入力 第6回　データ分析：単純集計，基本統計量 第7回　データ分析：クロス集計，相関係数 第8回　データ分析：グラフの作成 第9回　論文作成：問題 第10回 論文作成：方法 第11回 論文作成：結果 第12回　論文作成：考察と引用文献 第13回 発表ファイルの作成 第14回 個人発表（１） 第15回 個人発表（２）
授業外における学習（準備学習の内容）	授業中の課題を復習し，Excelの操作に慣れておく
授業方法	演習
評価基準と評価方法	授業での課題提出など平常点60%，授業態度20%，発表資料と発表20%
教科書	
参考書	

－　　－　　－

科目区分	心理学科専門教育科目						
科目名	基礎演習B／心理学調査法II						
担当教員	黒崎　優美						
学期	後期／2nd　semester	曜日・時限	月曜2	配当学年	1	単位数	2.0

授業のテーマ	調べて分析し、伝えよう
授業の概要	心理学の調査方法でもっともよく用いられる質問紙調査について、簡単な質問紙を作成、実施、分析しながら学ぶことを目的とした授業です。前期の「基礎演習Ａ」で形にした心理学への関心をもとに「質問紙」を作成し、質問紙調査で得たデータを、Excelを用いて分析します。そして、その結果を形式の整った心理学レポートにしながらレポートの書き方について学びます。最後に、調査結果を発表します。
到達目標	学生自身の興味を、心理学の方法を用いて解明できるようになること
授業計画	第1回　質問紙の作成（１） 第2回　質問紙の作成（２） 第3回　質問紙の作成（３） 第4回　質問紙への回答 第5回　データの入力 第6回　データ分析：単純集計，基本統計量 第7回　データ分析：クロス集計，相関係数 第8回　データ分析：グラフの作成 第9回　論文作成：問題 第10回 論文作成：方法 第11回 論文作成：結果 第12回　論文作成：考察と引用文献 第13回 発表ファイルの作成 第14回 個人発表（１） 第15回 個人発表（２）
授業外における学習（準備学習の内容）	授業中の課題を復習し，Excelの操作に慣れておく
授業方法	演習
評価基準と評価方法	授業での課題提出など平常点60%，授業態度20%，発表資料と発表20%
教科書	
参考書	

－　　－　　－

科目区分	心理学科専門教育科目						
科目名	基礎演習B／心理学調査法II						
担当教員	土肥　伊都子						
学期	後期／2nd　semester	曜日・時限	月曜2	配当学年	1	単位数	2.0

授業のテーマ	調べて分析し、伝えよう
授業の概要	心理学の調査方法でもっともよく用いられる質問紙調査について、簡単な質問紙を作成、実施、分析しながら学ぶことを目的とした授業です。前期の「基礎演習Ａ」で形にした心理学への関心をもとに「質問紙」を作成し、質問紙調査で得たデータを、Excelを用いて分析します。そして、その結果を形式の整った心理学レポートにしながらレポートの書き方について学びます。最後に、調査結果を発表します。
到達目標	学生自身の興味を、心理学の方法を用いて解明できるようになること
授業計画	第1回　質問紙の作成（１） 第2回　質問紙の作成（２） 第3回　質問紙の作成（３） 第4回　質問紙への回答 第5回　データの入力 第6回　データ分析：単純集計，基本統計量 第7回　データ分析：クロス集計，相関係数 第8回　データ分析：グラフの作成 第9回　論文作成：問題 第10回 論文作成：方法 第11回 論文作成：結果 第12回　論文作成：考察と引用文献 第13回 発表ファイルの作成 第14回 個人発表（１） 第15回 個人発表（２）
授業外における学習（準備学習の内容）	授業中の課題を復習し，Excelの操作に慣れておく
授業方法	演習
評価基準と評価方法	授業での課題提出など平常点60%，授業態度20%，発表資料と発表20%
教科書	
参考書	

－　　－　　－

科目区分	心理学科専門教育科目						
科目名	基礎演習B／心理学調査法II						
担当教員	待田　昌二						
学期	後期／2nd　semester	曜日・時限	月曜2	配当学年	1	単位数	2.0

授業のテーマ	調べて分析し、伝えよう
授業の概要	心理学の調査方法でもっともよく用いられる質問紙調査について、簡単な質問紙を作成、実施、分析しながら学ぶことを目的とした授業です。前期の「基礎演習Ａ」で形にした心理学への関心をもとに「質問紙」を作成し、質問紙調査で得たデータを、Excelを用いて分析します。そして、その結果を形式の整った心理学レポートにしながらレポートの書き方について学びます。最後に、調査結果を発表します。
到達目標	学生自身の興味を、心理学の方法を用いて解明できるようになること
授業計画	第1回　質問紙の作成（１） 第2回　質問紙の作成（２） 第3回　質問紙の作成（３） 第4回　質問紙への回答 第5回　データの入力 第6回　データ分析：単純集計，基本統計量 第7回　データ分析：クロス集計，相関係数 第8回　データ分析：グラフの作成 第9回　論文作成：問題 第10回 論文作成：方法 第11回 論文作成：結果 第12回　論文作成：考察と引用文献 第13回 発表ファイルの作成 第14回 個人発表（１） 第15回 個人発表（２）
授業外における学習（準備学習の内容）	授業中の課題を復習し，Excelの操作に慣れておく
授業方法	演習
評価基準と評価方法	授業での課題提出など平常点60%，授業態度20%，発表資料と発表20%
教科書	
参考書	

－　　－　　－

科目区分	心理学科専門教育科目						
科目名	行動観察法						
担当教員	志澤　康弘						
学期	後期／2nd　semester	曜日・時限	火曜4	配当学年	2～3	単位数	2.0

授業のテーマ	行動観察法を修得すること、同時に科学的思考と統計に対する苦手意識を減らすこと。
授業の概要	この講義では行動観察法を修得することを目的とする。 具体的には、問題の発見、研究計画、分析方法について行動観察に特有な方法を考慮しながら学ぶ。 また、行動観察に限らず、一般に人が苦手とする思考方法、確証バイアス、確率の無視という点についてを少しでも克服する方向に向けることをもう一つの目的とする。
到達目標	適切に資料を参照しながら、研究（特に行動を扱った研究）の目標設定、分析、考察が行えるようになる。 科学的思考、例えば証拠を押さえるだけではなく反証がないことを言う必要性を理解する。 Σを含む程度の式について、式を与えられれば計算ができるようになる。
授業計画	行動観察の導入および体験（観察とレポート） 1. 行動研究の概要 2. 映像を見て観察を体験する 3. 映像を見て分析を体験する 行動観察法（講義） 4. 問題の発見から研究の目的へ 5. 研究計画（何をどのように測定するか） 6. 行動の測定法（サンプリングの方式と記録の方式） 7. 行動の測定に関しての留意点（信頼性と妥当性他） 8. 分析方法（概論） 9. 分析方法（統計の使用について） 10. 分析方法（行動観察でしばしば用いられる特殊な分析） 11. 学術論文における文章の書き方 13. レポートを振り返りながらの復習 14. 行動観察のポイントと一般社会生活における仮説検証 15. まとめと試験
授業外における学習（準備学習の内容）	2回目3回目は実習を行う。これについてレポートを作成する。講義資料を1回は読み返し、授業中に理解できなかった用語、考え方があれば再度資料等を読み返しそれでも不明ならば次回授業時間で質問できるよう準備する。
授業方法	講義・実習
評価基準と評価方法	レポート30%。試験70%。 授業に出席し参加することを前提とする（１回の欠席で１点減点とする、授業に参加していない態度を示す場合や、授業中に示した小レポートを提出しない、あるいはほとんど空欄で提出するなど、は評価上の出席とは見なさないことがある）。
教科書	
参考書	Ｐ．マーティン　＆　Ｐ．ベイトソン　1990　行動研究入門　　動物行動の観察から解析まで　東海大出版会　ISBN: 4486011376

－　　－　　－

科目区分	心理学科専門教育科目						
科目名	心の医学／精神医学I						
担当教員	安達　圭一郎						
学期	前期／1st　semester	曜日・時限	火曜4	配当学年	2～3	単位数	2.0

授業のテーマ	精神疾患の代表とも言える「気分障害」について取りあげる。
授業の概要	気分障害は、うつ病性障害、双極性障害、一般身体疾患による気分障害、物質誘発性気分障害の総称である（DSM-Ⅳ-TR）。こうした気分障害の発症件数は、1996年から2008年にかけて2.4倍にも増加してきたが、本人のみならず家族、同僚といった重要人物の理解は未だ乏しい。病相によっては死に至る病であることを念頭に、現在の知見を解説する。
到達目標	気分障害の病状や治療、気分障害を持つ患者との関わりのあり方について理解する。
授業計画	第1回　オリエンテーション　概要説明と受講用件の確認 第2回　気分障害とは①　DSM-Ⅳ-TRについて 第3回　気分障害とは②　気分障害発症の要因について① 第4回　気分障害とは③　気分障害発症の要因について② 第5回　気分障害とは④　気分障害の診断について 第6回　気分障害の症状について　性格と病気の違いについて 第7回　大うつ病性障害とは　病状について 第8回　双極性障害とは　病状について 第9回　気分変調性障害とは　病状について 第10回　気分障害の治療①　薬物治療について 第11回　気分障害の治療②　日常生活について 第12回　気分障害の治療③　心理療法について 第13回　気分障害の治療④　統合的アプローチの考え方 第14回　今後の課題　心理学を学ぶ者として、何が重要か。 第15回　まとめと試験
授業外における学習（準備学習の内容）	文庫本でも良いので、うつ病について取りあげた書籍、新聞記事などに目を通しておいてほしい。
授業方法	講義形式と一部演習。
評価基準と評価方法	受講態度30%、期末試験70%
教科書	
参考書	

－　　－　　－

科目区分	心理学科専門教育科目						
科目名	心のふしぎ						
担当教員	黒崎　優美						
学期	前期／1st　semester	曜日・時限	火曜3	配当学年	1	単位数	2.0

授業のテーマ	心理学入門
授業の概要	目的と概要：　形も色も重さもないはずの心が、重くなったり軽くなったり、暖まったり「ここにあらず」だったりするのを私たちは日々経験しています。心理学とは、そのような心のはたらきを明らかにするための学問です。本授業では、日常生活における身近な事柄からいわゆる心の病まで、心がうみだすさまざまな現象について考え、理解を深めます。また、心理学を活かした職業や、心理学が社会のなかでどのように活かされているのかについても紹介します。
到達目標	心理学的知識を得るだけでなく、自分自身の心のふしぎに向き合い、考え、新たな問いや方向性を見出し、今後の専門科目履修につなげることを目指す。
授業計画	第１回　心の発見と探求　～心理学の歴史～ 第２回　心のなかをのぞいてみよう　～心的構造論(1)～ 第３回　夢をみる心　～心的構造論(2)～ 第４回　心の誕生と世界のはじまり　～発達心理学(1)～ 第５回　心の成長と世界のまとまり　～発達心理学(2)～ 第６回　心の痛みを知る　～臨床心理学(1)～ 第７回　心の痛みと精神病理　～臨床心理学(2)～ 第８回　心の状態を知る　～質問紙法による心理査定～ 第９回　心の状態を知る　～投影法による心理査定～ 第10回　心の痛みに向き合う　～行動主義的心理療法～ 第11回　心の痛みに向き合う　～力動主義的心理療法～ 第12回　人の間に生きる心　～社会心理学(1)～ 第13回　集団と個人の心　～社会心理学(2)～ 第14回　集団の心とその病理　～社会心理学(3)～ 第15回　まとめと試験
授業外における学習（準備学習の内容）	授業前学習：　次回のテーマに関する課題を出すことがあります。 授業後学習：　授業で紹介する参考文献を読みさらに理解を深めて下さい。また、授業内容や参考文献から自分なりに理解した内容や感じたことなどを文章にまとめてください。試験のとき役立ちます。
授業方法	基本的に講義形式ですが、毎回テーマに関わる作業を行い、授業レポートとして提出してもらいます。
評価基準と評価方法	授業レポート（出席点を含む）　40%、試験 60%
教科書	プリントを配布します。
参考書	適宜紹介します。

－　　－　　－

科目区分	心理学科専門教育科目						
科目名	子育て支援の心理学						
担当教員	寺井　さち子						
学期	後期／2nd　semester	曜日・時限	金曜3	配当学年	3～4	単位数	2.0

授業のテーマ	現代社会における子育てのあり方について学び考えることをテーマとする。
授業の概要	子育て支援に関する基礎知識を幅広い領域から学ぶため、心理学領域に限らず、教育的意義、医学的意義、社会福祉的意義を踏まえて広い知識の習得を目指す。
到達目標	子どもを大切に育てることの心理学的意義を実感すること。
授業計画	①子育て支援とは ②子どもの位置づけの歴史と問題背景 ③子育ての使命と倫理 ④教育的意義について ⑤医学からの子育て支援　子どもの医学：妊娠から乳児期 ⑥医学からの子育て支援　子どもの医学：子どもの主な病気 ⑦臨床心理学からの子育て支援　乳児期から幼児期 ⑧臨床心理学からの子育て支援　幼児期から児童期 ⑨社会福祉からの子育て支援　家庭と地域 ⑩社会福祉からの子育て支援　高齢者の存在意義 ⑪子ども支援　海外に学ぶ ⑫子ども支援　遊びを通した学び ⑬子育て実技　具体的対処について：子どもの病気 ⑭子育て実技　具体的対処について：子どもの怪我 ⑮総合的解説と到達度確認のテスト
授業外における学習（準備学習の内容）	地域の子育ての実態に日頃から関心を持って過ごすこと。
授業方法	板書をしながら講義を行う。学生によるグループ討論などを行うこともある。
評価基準と評価方法	評価は試験を中心に行うが、平常点は30%ととし、欠席やレポート未提出の場合は減点する。
教科書	「子育て支援」時潮社
参考書	指定なし

－　　－　　－

科目区分	心理学科専門教育科目						
科目名	コミュニケーション演習／臨床心理学研究法Ⅳ						
担当教員	坂本　真佐哉						
学期	前期／1st　semester	曜日・時限	金曜1	配当学年	2～3	単位数	2.0

授業のテーマ	心理援助の技法を応用したコミュニケーション・トレーニングを通してスキルを磨く。
授業の概要	コミュニケーション技法の基礎理論について学んだ後、実際にロールプレイ（役割演技）を通して援助的なコミュニケーションの方法を体験学習する。最初は１対１のコミュニケーション。相手に溶け込む方法と相手の「自信・元気・可能性」等を引き出す方法を学ぶ。次に１対複数のコミュニケーション。集団（２～３名）に溶け込む方法を学び、その集団の「自信・元気・可能性」等を引き出す方法を学ぶ。全員がロールプレイを体験し、講師が適宜解説を加える。
到達目標	実社会で応用できる対人コミュニケーションの技法を習得する。
授業計画	第１回　授業内容と進め方についてオリエンテーション、グループ分け（自己紹介） 第２回　ロールプレイと討論 第３回　傾聴技法について（講義） 第４回　ロールプレイ1-1　傾聴 第５回　ロールプレイ1-2　傾聴 第６回　グループ報告とディスカッション、解決志向の会話（講義） 第７回　ロールプレイ2-1　解決志向の初級会話 第８回　ロールプレイ2-2　解決志向の初級会話 第９回　グループ報告とディスカッション、質疑応答、補足説明 第１０回　ロールプレイ3-1　複数面接 第１１回　複数面接のコツ（講義） 第１２回　ロールプレイ3-2　複数面接 第１３回　ロールプレイ3-3　複数面接 第１４回　グループ報告とディスカッション、質疑応答、補足説明 第１５回　総括　レポート作成
授業外における学習（準備学習の内容）	日常のコミュニケーションについて注意深く観察し、学んだ技法の応用を試みる。
授業方法	すべて演習形式で行う
評価基準と評価方法	平常点60%（遅刻・欠席は、減点の対象となります）、ロールプレイへの取り組み30%、レポート10%
教科書	なし
参考書	坂本真佐哉、和田憲明、東豊（2001）　「心理療法テクニックのススメ」　金子書房 ISBN　4-7608-2590-8

－　　－　　－

科目区分	心理学科専門教育科目						
科目名	コミュニケーション演習／臨床心理学研究法Ⅳ						
担当教員	坂本　真佐哉						
学期	後期／2nd　semester	曜日・時限	金曜1	配当学年	2～3	単位数	2.0

授業のテーマ	心理援助の技法を応用したコミュニケーション・トレーニングを通してスキルを磨く。
授業の概要	コミュニケーション技法の基礎理論について学んだ後、実際にロールプレイ（役割演技）を通して援助的なコミュニケーションの方法を体験学習する。最初は１対１のコミュニケーション。相手に溶け込む方法と相手の「自信・元気・可能性」等を引き出す方法を学ぶ。次に１対複数のコミュニケーション。集団（２～３名）に溶け込む方法を学び、その集団の「自信・元気・可能性」等を引き出す方法を学ぶ。全員がロールプレイを体験し、講師が適宜解説を加える。
到達目標	実社会で応用できる対人コミュニケーションの技法を習得する。
授業計画	第１回　授業内容と進め方についてオリエンテーション、グループ分け（自己紹介） 第２回　ロールプレイと討論 第３回　傾聴技法について（講義） 第４回　ロールプレイ1-1　傾聴 第５回　ロールプレイ1-2　傾聴 第６回　グループ報告とディスカッション、解決志向の会話（講義） 第７回　ロールプレイ2-1　解決志向の初級会話 第８回　ロールプレイ2-2　解決志向の初級会話 第９回　グループ報告とディスカッション、質疑応答、補足説明 第１０回　ロールプレイ3-1　複数面接 第１１回　複数面接のコツ（講義） 第１２回　ロールプレイ3-2　複数面接 第１３回　ロールプレイ3-3　複数面接 第１４回　グループ報告とディスカッション、質疑応答、補足説明 第１５回　総括　レポート作成
授業外における学習（準備学習の内容）	日常のコミュニケーションについて注意深く観察し、学んだ技法の応用を試みる。
授業方法	すべて演習形式で行う
評価基準と評価方法	平常点60%（遅刻・欠席は、減点の対象となります）、ロールプレイへの取り組み30%、レポート10%
教科書	なし
参考書	坂本真佐哉、和田憲明、東豊（2001）　「心理療法テクニックのススメ」　金子書房 ISBN　4-7608-2590-8

－　　－　　－

科目区分	心理学科専門教育科目						
科目名	産業カウンセリング論						
担当教員	千葉　征慶						
学期	後期／2nd　semester	曜日・時限	火曜1	配当学年	3～4	単位数	2.0

授業のテーマ	「働く人々」を対象としたカウンセリングが産業カウンセリングです。 産業カウンセラーの実務や扱う事柄を学びます。 これから社会に出て働こうと望んでいるみなさんにとって、今そしてこれから何が大切であるか、 これを体験学習を通して学ぶ機会になると思います。
授業の概要	働く人々を対象にしたカウンセリングの実際を学ぶこと、これが授業の目的です。 講師は、民間企業に勤務している産業カウンセラーですので、 現場での仕事内容(社員教育とカウンセリング事例対応など)を紹介します。 また実際にカウンセリングを行う時の基本的な事柄について体験学習し、ビデオ鑑賞して理解を深めます。 また、背景知識として、キャリアカウンセリング、労働衛生行政の歴史や法規にも触れます。
到達目標	自身の経験に基づきながら、相手の話を聴くとはどういうことなのか、 自身の人生（キャリア）が発達していく、開発していくには、どんな観点から、 これを捉えていくことが助けになるのか、自分なりの手ごたえや前進感が感じられること。
授業計画	第１回:　ようこそ! 産業カウンセリング論へ　　授業のガイダンス等 第２回:　メンタルヘルス教育の実際①　（３つのＳと４つの取り組み） 第３回:　メンタルヘルス教育の実際②　（おまけの話などなど） 第４回:　いよいよ事例紹介!　メンタルヘルス事例対応の実際 第５回:　面接相談の基本を学ぶ①　聴けてますか?相手のお話 第６回:　面接相談の基本を学ぶ②　人の話の三つの要素 第７回:　面接相談の基本を学ぶ③　人の話の三つの要素　練習を続けよう 第８回:　面接相談の基本を学ぶ④　感情に触れるフィードバック 第９回:　面接相談の基本を学ぶ⑤　感情に触れるフィードバック 第10回:　面接場面のビデオ鑑賞 第11回:　背景知識を学ぼう① キャリアについて①自分の持ち味を活かす　「適材適所」という発想 第12回:　背景知識を学ぼう② キャリアについて②「転機」のおとずれ　「ピンチ」を「チャンス」に 第13回:　背景知識を学ぼう③ キャリアについて③人生は「計画性」と「偶然性」のミックスジュース 第14回:　背景知識を学ぼう④ 労働衛生行政の歴史と法規　人に歴史あり、制度・ルールに事件あり 第15回:　まとめ、質疑応答、試験
授業外における学習（準備学習の内容）	日々の体調管理。ご自身のケアをこころがけて「あさ一番」の授業に遅刻しない、 体力・健康の保持に努めて下さい。 期末になると「ブックレポート」課題図書が「貸し出し中」で手に入りにくくなります。 早めに準備してください。
授業方法	一方的な情報提供(講義)ではなく、体験学習をねらいとしたワークを授業に取り入れます。
評価基準と評価方法	出席(遅刻の有無)重視。課題として、参考図書のブックレポートの提出。試験の成績を加味します。 評価を数式で敢えて表現すれば、下記の通りです。 成績１００＝授業態度(４０)＋課題(ブックレポート)(３０)＋試験(３０)
教科書	配布資料がテキストになります。また参考図書の一読が、課題(ブックレポート)に取り組むために、 必要になります。購入も検討してみて下さい。ご自分の進路選択に関しても役に立つ一冊になると思います。
参考書	新刊キャリアの心理学　渡部三枝子偏(ナカニシヤ書店) これからの職場のメンタルヘルス　藤井久和(創元社) フランクルを学ぶ人のために　山田邦男偏(世界思想社)

－　　－　　－

科目区分	心理学科専門教育科目						
科目名	社会心理学A／社会心理学I						
担当教員	土肥　伊都子						
学期	前期／1st　semester	曜日・時限	木曜1	配当学年	2	単位数	2.0

授業のテーマ	主に個人，対人レベルに関する社会心理学の習得
授業の概要	個人の行動や態度、感情や性格などは、生育環境や現在の社会的環境、身近な他者の存在などによって大きく影響を受けている。反対に一人一人の行動が、思わぬ集合現象や集団的活動を引き起こす。本講義では、こうした個人と社会の相互影響についての理解をめざし、人間の対人あるいは集団行動に関する心理学的法則を学習する。Ｉでは主に、パーソナリティの社会的形成と対人関係について学ぶ。
到達目標	心に対する社会心理学的アプローチを理解すること。
授業計画	第１回　社会心理学とは 第２回　印象形成 第３回　帰属のモデル 第４回　帰属のエラーとバイアス 第５回　社会的認知とスキーマ 第６回　認知的斉合性と不協和理論 第７回　自己概念とアイデンティティ 第８回　社会的感情 第９回　社会的動機 第１０回　対人魅力 第１１回　社会的比較と主観的幸福感 第１２回　態度と行動，説得 第１３回　コミュニケーションと社会的交換 第１４回　前期授業の補足，質疑応答 第１５回　前期試験と後期授業の説明
授業外における学習（準備学習の内容）	授業中に紹介する参考文献や，心理学科のサイトの推薦図書を自主的に読む。
授業方法	講義形式
評価基準と評価方法	平常点４０％，定期試験６０％
教科書	
参考書	池上知子・遠藤由美（共著）　グラフィック社会心理学第２版　（サイエンス社） 二宮克美・小安増生（編著）　キーワードコレクション社会心理学　（新曜社）

－　　－　　－

科目区分	心理学科専門教育科目						
科目名	社会心理学B／社会心理学II						
担当教員	土肥　伊都子						
学期	後期／2nd　semester	曜日・時限	木曜1	配当学年	2	単位数	2.0

授業のテーマ	主に集団，大衆レベルに関する社会心理学の習得
授業の概要	社会心理学A（Ⅰ）に引き続き、B（Ⅱ）では主に、集団行動や大衆現象、身近な社会問題の領域について、人間の社会行動の心理学的法則を学習する。また、社会心理学の研究方法を学ぶために、具体的な研究例を数多く紹介する。
到達目標	心に対する社会心理学的アプローチを理解すること。 自分の意見を効果的にプレゼンテーションすること。
授業計画	第１回　個人と集団 第２回　集団の凝集性，意思決定，集団思考 第３回　集団規範 第４回　同調と服従，リーダーシップ 第５回　個人発表のための文献検索 第６回　文化と人間 第７回　援助行動 第８回　エコロジー 第９回　ストレス 第１０回　ジェンダー 第１１回　個人発表会Ⅰ 第１２回　個人発表会Ⅱ 第１３回　個人発表会Ⅲ 第１４回　質疑応答 第１５回　後期試験
授業外における学習（準備学習の内容）	授業中に紹介する参考文献や，心理学科のサイトの推薦図書を自主的に読む。
授業方法	講義形式 個人発表
評価基準と評価方法	平常点２０％，　発表３０％，　定期試験５０％
教科書	
参考書	池上知子・遠藤由美(共著)　グラフィック社会心理学第２版　（サイエンス社） 二宮克美・子安増生（編著）　キーワードコレクション社会心理学　（新曜社）

－　　－　　－

科目区分	心理学科専門教育科目						
科目名	心理学調査法／社会心理学研究法						
担当教員	久津木　文						
学期	後期／2nd　semester	曜日・時限	金曜2	配当学年	2～3	単位数	2.0

授業のテーマ	心理学調査・実験に使う統計ソフトの操作の習得。
授業の概要	心理学の調査法の一つとして質問紙調査がある。本講義では質問項目の作成から分析方法までについて講義し、実際にサンプルデータの分析を各自行う。 キーワード（ＳＰＳＳ、統計ソフト、分析、卒論）
到達目標	卒論で使うであろう統計手法をＳＰＳＳで行えるようになる。 よく使う統計手法の意味と読み方がわかるようになる。
授業計画	1　質問紙調査とは何か 2　調査目的の明確化と仮説モデルの作成 3　先行研究の文献検索 4　調査方法の選定・サンプリング 5　質問紙の作成（質問文、回答方法、ワ―ディング） 6　尺度構成 7　データ入力（コード化、無効票の処理、データのクリーニング） 8　自由回答のカテゴリー化、再コード化 9　単純集計（度数分布、基本統計量）、尺度得点の作成 10　クロス集計とカイ二乗検定、相関 11　推定と検定 12　平均値の差の検定（ｔ検定と分散分析） 13　重回帰分析 14　結果の解釈、考察、仮説モデルとの照合 15　報告書の作成
授業外における学習（準備学習の内容）	基本的なパソコンの操作などは自分でわかっておくことが必要。 授業で習った操作を自分ひとりでもできるようになっておくことが必要。 必要であれば統計の本、ネットのサイトなどを参考にし、理解を深めておくこと。
授業方法	講義方式　個別作業
評価基準と評価方法	平常点（授業態度及び課題への取り組み等）40%,　提出課題60%
教科書	適宜紹介
参考書	適宜紹介

－　　－　　－

科目区分	心理学科専門教育科目						
科目名	消費社会の心理学／消費社会の心理						
担当教員	前田　洋光						
学期	前期／1st　semester	曜日・時限	木曜2	配当学年	3～4	単位数	2.0

授業のテーマ	消費者行動を理解するための心理学
授業の概要	消費者行動とは、消費者が購買し、使用・維持を経て廃棄に至るすべての行動プロセスを含んだものであり、その行動は、消費者の個人内要因や環境からの外的要因など、多様な要因から影響を受けている。本講では、消費者の購買意思決定過程や情報処理、価格判断など、幅広くトピックを取り上げ、消費者を取り巻く問題を論考していく。 受講者にとってきわめて身近なテーマであるため、日常生活と照らし合わせて考え、よりよい消費生活を考えるきっかけにしてほしい。
到達目標	・さまざまな消費行動を、客観的な視点から論考することができる。 ・消費の文脈から、人間理解を深めることができる ・消費者の特性を理解した上で、マーケティング戦略との対応を考えることができる。
授業計画	1.　イントロダクション 2.　消費者の情報探索 3.　多属性態度モデルと決定方略 4.　非合理的な意思決定(1) 5.　非合理的な意思決定(2) 6.　選択肢評価 7.　価格と購買意思決定(1) 心理的財布 8.　価格と購買意思決定(2) 非合理的な消費者の価格判断 9.　消費者満足 10.　モノの意味：消費者の所有過程 11.　消費者のくちコミ行動(1) マスコミとくちコミの効果差異 12.　消費者のくちコミ行動(2) くちコミ効果を左右する要因 13.　消費者のくちコミ行動(3) 情報の送り手としてのくちコミ行動 14.　消費者の廃棄過程 15.　まとめと確認テスト
授業外における学習（準備学習の内容）	参考図書を熟読すること。 また、授業で学習した内容について、例えば実際に店舗内（売り場）を観察する等、マーケティング戦略との関連を検討してみてください。
授業方法	講義形式でおこなう。講義毎に、当該授業のテーマに関する簡単な小レポートを実施する。
評価基準と評価方法	テスト（70%） 小レポート・平常点（30%）
教科書	
参考書	竹村和久（編著）（2000）消費行動の社会心理学　北大路書房 杉本哲雄（編著）（1997）消費者理解のための心理学　福村出版

－　　－　　－

科目区分	心理学科専門教育科目						
科目名	心理学演習A						
担当教員	安達　圭一郎						
学期	前期／1st　semester	曜日・時限	月曜3	配当学年	3	単位数	2.0

授業のテーマ	心理学演習Bとともに、卒業論文の作成に向けて、テーマの決定、研究法の選定、計画書作成をおこなうのが本演習の目的である。
授業の概要	基本的には、毎回複数名が、関心のある論文の要約を、資料とともにオーラルで報告する。その場合、受講生の関心の所在によって、指導内容も異なってくるが、基本的には受講生全員によるディスカッションを多く取り入れ、相互のテーマについて批評をおこなう。
到達目標	最低でも、1人5本以上の論文（和、洋問わず）をまとめ、自己の研究テーマを明確にする。
授業計画	第1回　オリエンテーション　概要説明と割り当て 第2回　文献検索①　関心のあるテーマに沿った文献の検索法について学ぶ① 第3回　文献検索①　関心のあるテーマに沿った文献の検索法について学ぶ② 第4回　研究論文の発表①　検索した論文をまとめて報告する① 第5回　研究論文の発表②　検索した論文をまとめて報告する② 第6回　研究論文の発表③　検索した論文をまとめて報告する③ 第7回　研究論文の発表④　検索した論文をまとめて報告する④ 第8回　研究論文の発表⑤　検索した論文をまとめて報告する⑤ 第9回　研究論文の発表⑥　検索した論文をまとめて報告する⑥ 第10回　研究論文の発表⑦　検索した論文をまとめて報告する⑦ 第11回　研究論文の発表⑧　検索した論文をまとめて報告する⑧ 第12回　研究論文の発表⑨　検索した論文をまとめて報告する⑨ 第13回　研究論文の発表⑩　検索した論文をまとめて報告する⑩ 第14回　先行研究のまとめ①　テーマを決定し、問題・目的を作成する① 第15回　先行研究のまとめ②　テーマを決定し、問題・目的を作成する②
授業外における学習（準備学習の内容）	文献の検索法を習得した後は、関心のあるテーマに関する文献を徹底的に読み、まとめること。
授業方法	ゼミナール形式
評価基準と評価方法	受講態度50%、レポート50%
教科書	
参考書	適宜紹介する。

－　　－　　－

科目区分	心理学科専門教育科目						
科目名	心理学演習A						
担当教員	大和田　攝子						
学期	前期／1st　semester	曜日・時限	月曜3	配当学年	3	単位数	2.0

授業のテーマ	被害者支援や死生学に関連する文献を読み、理解を深める。
授業の概要	被害者支援や死生学に関するテーマ、およびその関連領域についての文献を講読し、さまざまな問題や支援のあり方について学習する。毎回担当者を決め、指定された本の内容を紹介し、受講生全員で議論を深める。具体的には、以下のような内容を扱う予定である。 犯罪被害者（遺族）の心理と支援、病名告知、ホスピス緩和ケア、末期患者の心理、自殺、生命倫理など。
到達目標	被害者支援や死生学に関連する文献を読み、理解できるようになること。
授業計画	第1回：オリエンテーション、発表割り当て 第2回：文献検索の方法を学ぶ 第3回：文献講読と討議（1） 第4回：文献講読と討議（2） 第5回：文献講読と討議（3） 第6回：文献講読と討議（4） 第7回：文献講読と討議（5） 第8回：文献講読と討議（6） 第9回：文献講読と討議（7） 第10回：文献講読と討議（8） 第11回：文献講読と討議（9） 第12回：文献講読と討議（10） 第13回：文献講読と討議（11） 第14回：文献講読と討議（12） 第15回：文献講読と討議（13）
授業外における学習（準備学習の内容）	授業は受講生の発表が中心となるので、発表者は担当する文献を熟読し、レジュメを用意すること。
授業方法	演習
評価基準と評価方法	発表内容や討論への参加（20%）、レポート（20%）、平常点（60%）などを総合的に評価する。
教科書	授業中に紹介する。
参考書	授業中に紹介する。

－　　－　　－

科目区分	心理学科専門教育科目						
科目名	心理学演習A						
担当教員	久津木　文						
学期	前期／1st　semester	曜日・時限	月曜3	配当学年	3	単位数	2.0

授業のテーマ	発達心理学（乳幼児期・社会性・コミュニケーション発達）の演習。
授業の概要	乳幼児期の社会性及びコミュニケーションの発達を中心とした分野の中で興味のもてそうな領域を探し、関連した研究論文を読めるようになることが第一の目的である。ただ論文を読むだけではなく、研究の結果や方法について疑問を持ち、議論できるようになってほしい。
到達目標	次年度の卒業論文調査・実験につながるトピックや研究法についての理解を深める。
授業計画	１．オリエンテーション、自己紹介、発表割り当て ２．個人発表とディスカッション１ ３．個人発表とディスカッション２ ４．個人発表とディスカッション３ ５．文献検索・収集１ ６．文献検索・収集２ ７．個人発表とディスカッション（文献）４ ８．個人発表とディスカッション（文献）５ ９．個人発表とディスカッション（文献）６ １０．興味のテーマ発表とディスカッション１ １１．興味のテーマの発表とディスカッション２ １２．興味のテーマの発表とディスカッション３ １３．個人発表とディスカッション（研究計画） １４．個人発表とディスカッション（研究計画） １５．夏季休暇中の課題
授業外における学習（準備学習の内容）	授業は学生の発表がメインである。毎回、または隔週で発表がまわってくるので、卒論につながる文献や調査を調べ理解しまとめることが必要である。
授業方法	ゼミナール方式
評価基準と評価方法	授業態度（２０％）、課題への取り組み（８０％）
教科書	適宜紹介する
参考書	適宜紹介する

－　　－　　－

科目区分	心理学科専門教育科目						
科目名	心理学演習A						
担当教員	黒崎　優美						
学期	前期／1st　semester	曜日・時限	月曜3	配当学年	3	単位数	2.0

授業のテーマ	卒業研究
授業の概要	目的：　次年度の卒業研究に向けて、研究テーマを設定し、研究論文の読み方・書き方を習得することを目的とします。 概要：　対人関係に関わる問題を中心に、興味のあるテーマについて文献を調べ、まとめた内容を発表し、全体討議を行います。活動は基本的に数名のチームで行います。
到達目標	設定した一つのテーマを深く探求し、その内容を相手に伝えるという課題を通して、心理学的研究法やテーマについて専門的知識を得るだけでなく、主体性、チームワーク、プレゼン力など、社会人として必要とされる基本的能力についても習得することを目指します。
授業計画	第１回　自己紹介、オリエンテーション 第２回　対人関係への接近法(1)　～VAT（原子価査定テスト）の施行～ 第３回　対人関係への接近法(2)　～VATの採点～ 第４回　対人関係への接近法(3)　～VATの解釈～ 第５回　先行研究から学ぶ(1)　～グルーピング、先行研究（原子価に関するもの）選択～ 第６回　先行研究から学ぶ(2)　～発表用資料製作１～ 第７回　先行研究から学ぶ(3)　～発表用資料製作２～ 第８回　先行研究から学ぶ(4)　～発表と全体討議１～ 第９回　先行研究から学ぶ(5)　～発表と全体討議２～ 第10回　先行研究から学ぶ(6)　～再グルーピング、先行研究（精神分析・対象関係論領域）選択～ 第11回　先行研究から学ぶ(7)　～発表用資料製作１～ 第12回　先行研究から学ぶ(8)　～発表用資料製作２～ 第13回　先行研究から学ぶ(9)　～発表と全体討議１～ 第14回　先行研究から学ぶ(10)　～発表と全体討議２～ 第15回　研究テーマ決定、後期に向けての課題
授業外における学習（準備学習の内容）	ゼミ内での分担作業、発表準備など、授業外活動は多くなります。
授業方法	ゼミ形式
評価基準と評価方法	授業やチームへの参加・貢献度を総合的に評価します。
教科書	「目に見えない人と人との繋がりをはかる－原子価査定テスト(VAT)の手引き」ハフシ・メッド著　ナカニシヤ出版　2010.
参考書	適宜紹介します。

－　　－　　－

科目区分	心理学科専門教育科目						
科目名	心理学演習A						
担当教員	寺井　さち子						
学期	前期／1st　semester	曜日・時限	月曜3	配当学年	3	単位数	2.0

授業のテーマ	子どもや思春期・青年期の臨床心理学的関心を高め、そうした分野の書籍。論文に馴染むこと。
授業の概要	心理学の領域の、特に子どもや思春期青年期に関する考えを深めるため、学生自らが興味関心を抱く論文や本を読み進める。分担して発表の担当に当たった者は必ずレジメを提出しその内容を解説するものとする。そしてそうした領域に関する知見を皆で深め合うなかで、次第に４年生で作成する卒業研究への準備を整えていく機会とする。
到達目標	学術論文を探せること。
授業計画	１．「心理学演習A」の科目として持つ特徴など全般的なオリエンテーションを行う。 ２．各自が来年度に向けて準備を進めたい分野について話し合う。 ３．図書館の使い方、特に論文の検索方法などについて学ぶ。 ４．図書館に常設されている心理学関連の書籍に馴染む。 ５．心理学関連の学術雑誌に馴染む。 ６．学術雑誌から子どもに関する論文を選びだしまとめる練習を行う。 ７．学術雑誌から思春期に関する論文を選び出しまとめる練習を行う。 ８．学術雑誌から青年期に関する論文を選び出しまとめる練習を行う。 ９．アタッチメント理論について学習を深め、関連する書物から発表を行う。 10. 最近のアタッチメント理論について学習を深めるため、関連する書物から発表を行う。 11. 発達障害（幼児期）について考えを深める。 12. 発達障害（児童期・思春期）について考えを深める。 13. いじめについて考えを深める。 14. 子どもの自殺について考えを深める。 15. 前期の学習について振り返る。
授業外における学習（準備学習の内容）	学術雑誌に目を通す習慣を身に着ける。
授業方法	学生が主体的に研究を進めるゼミ形式をとる。教員は各学生の発表を支えて、より発展的にその内容を深められるよう
評価基準と評価方法	発表した内容、レジメのまとめかた、考えを深めようとする姿勢などから総合的に評価する。 平常点を50%ととし、欠席や発表回数が不足する場合は減点します。
教科書	なし
参考書	なし

－　　－　　－

科目区分	心理学科専門教育科目						
科目名	心理学演習A						
担当教員	土肥　伊都子						
学期	前期／1st　semester	曜日・時限	月曜3	配当学年	3	単位数	2.0

授業のテーマ	社会心理学の先行研究のレビュー
授業の概要	社会心理学の研究分野の中から、学生自身が興味をもつテーマを選び、まとめ、発表する。以下にテーマの候補をあげる。自己・自己概念、対人認知、動機・感情、対人魅力、対人スキル、集団行動、リーダーシップ、社会的態度、ライフスタイル・価値観、精神的健康、職業意識、社会問題（女性、環境、福祉など）。
到達目標	社会心理学の研究論文や著書を読み，理解できるようになること。
授業計画	第１回　オリエンテーション，発表割当て 第２回　個人発表と討論１（研究テーマ案） 第３回　個人発表と討論２（研究テーマ案） 第４回　個人発表と討論３（研究テーマ案） 第５回　個人発表と討論４（研究テーマ案） 第６回　文献（研究論文・著書）の収集 第７回　文献（研究論文・著書）発表１ 第８回　文献（研究論文・著書）発表２ 第９回　文献（研究論文・著書）発表３ 第１０回　文献（研究論文・著書）発表４ 第１１回　文献（研究論文・著書）発表５ 第１２回　文献（研究論文・著書）発表６ 第１３回　文献（研究論文・著書）発表７ 第１４回　文献（研究論文・著書）発表８ 第１５回　夏季休暇中の課題について
授業外における学習（準備学習の内容）	自分が関心をもつ社会問題についての情報を収集するために，日頃から新聞などに目を通す。
授業方法	ゼミナール形式
評価基準と評価方法	平常点１００％
教科書	
参考書	

－　　－　　－

科目区分	心理学科専門教育科目						
科目名	心理学演習A						
担当教員	中村　博文						
学期	前期／1st　semester	曜日・時限	月曜3	配当学年	3	単位数	2.0

授業のテーマ	事象の臨床心理学的理解
授業の概要	受講生各自が興味をもつ臨床心理学のテーマについて，内外の文献を取り上げ，発表・討論を行う。 その過程で，臨床心理学的観点に基づいた現象の理解，および研究の基本的な技法と態度を身につけることを目的とする。
到達目標	様々な心にまつわる現象を，臨床心理学的観点から理解することができるようになる。 心理学研究の，基本的な技法と態度を身につけることができる。
授業計画	#01：オリエンテーション－演習の進め方について #02：心理学論文の形式 #03：文献の種類 #04：文献検索の方法 #05：受講生による発表と討論－1周目の① #06：受講生による発表と討論－1周目の② #07：受講生による発表と討論－1周目の③ #08：受講生による発表と討論－1周目の④ #09：受講生による発表と討論－1周目の⑤ #10：受講生による発表と討論－2周目の① #11：受講生による発表と討論－2周目の② #12：受講生による発表と討論－2周目の③ #13：受講生による発表と討論－2周目の④ #14：受講生による発表と討論－2周目の⑤ #15：まとめ，文献リストの提出
授業外における学習（準備学習の内容）	それぞれ関心がある領域についての文献を検索し，発表資料としてまとめること。
授業方法	演習形式。 毎回，数名ずつ（受講人数によりその数は異なる）発表を行い，それに基づいて全員での討論を行う。発表・討論ともに，積極的に取り組むことを求める。
評価基準と評価方法	発表（60%），および討論への参加態度（40%）により評価を行う。
教科書	指定しない。
参考書	適時紹介する。

－　　－　　－

科目区分	心理学科専門教育科目						
科目名	心理学演習A						
担当教員	待田　昌二						
学期	前期／1st　semester	曜日・時限	月曜3	配当学年	3	単位数	2.0

授業のテーマ	心理学の専門的な知識の集め方とテーマの設定
授業の概要	心理学の専門的な知識の集め方、研究方法について学ぶとともに、自身の研究テーマを見つけることを目的とした授業です。進化心理学、非言語コミュニケーションなどに関する本や論文を読み、専門的な本や研究論文における議論の進め方、データ収集と処理の方法、図表の示し方などを、論文を精読しながら具体的に学んでいきます。そして、心理学の本と研究論文から各自の関心に近いものを選び発表・議論します。また、パワーポイントによる発表の技術も習得します。
到達目標	心理学の本と研究論文を目的に応じて探し、読みこなし、内容を他者に伝えることができるようになること。
授業計画	第１回　授業の進め方と文献の紹介 第２回　心理学の本を読む１ 第３回　心理学の本を読む２ 第４回　心理学の本を読む３ 第５回　パワーポイントによる発表方法の習得 第６回　受講生による本の紹介１ 第７回　受講生による本の紹介２ 第８回　受講生による本の紹介３ 第９回　研究論文の読み方と紹介１ 第10回　研究論文の読み方と紹介２ 第12回　受講生による研究論文の紹介１ 第13回　受講生による研究論文の紹介２ 第14回　受講生による研究論文の紹介３ 第15回　受講生による研究論文の紹介４
授業外における学習（準備学習の内容）	本と論文を読み発表の準備をする。
授業方法	演習
評価基準と評価方法	授業への取り組みなど平常点50%、発表50%
教科書	使用しない
参考書	

－　　－　　－

科目区分	心理学科専門教育科目						
科目名	心理学演習B						
担当教員	安達　圭一郎						
学期	後期／2nd　semester	曜日・時限	月曜3	配当学年	3	単位数	2.0

授業のテーマ	心理学演習Aに引き続き、卒業論文の作成に向けて取り組む。
授業の概要	各自が段階を追って、問題・目的、方法、結果の分析法を練り上げていく。毎回複数名の学生が、自己の研究テーマ、問題・目的などを報告し、相互で批評する。
到達目標	研究計画書の作成
授業計画	第1回　オリエンテーション　概要説明と割り当て 第2回　先行研究のまとめ①　テーマ、問題・目的などの発表① 第3回　先行研究のまとめ②　テーマ、問題・目的などの発表② 第4回　先行研究のまとめ③　テーマ、問題・目的などの発表③ 第5回　先行研究のまとめ④　テーマ、問題・目的などの発表④ 第6回　先行研究のまとめ⑤　テーマ、問題・目的などの発表⑤ 第7回　先行研究のまとめ⑥　テーマ、問題・目的などの発表⑥ 第8回　先行研究のまとめ⑦　テーマ、問題・目的などの発表⑦ 第9回　先行研究のまとめ⑧　テーマ、問題・目的などの発表⑧ 第10回　先行研究のまとめ⑨　テーマ、問題・目的などの発表⑨ 第11回　先行研究のまとめ⑩　テーマ、問題・目的などの発表⑩ 第12回　計画書の作成①　研究課題に合わせた研究法の決定① 第13回　計画書の作成②　研究課題に合わせた研究法の決定② 第14回　計画書の作成③　研究計画書を完成する① 第15回　計画書の作成④　研究計画書を完成する②
授業外における学習（準備学習の内容）	自己のテーマに関連する文献（書籍・論文など）を熟読し、整理して理解しておくこと。
授業方法	ゼミナール形式
評価基準と評価方法	受講態度50%、レポート50%
教科書	
参考書	適宜紹介する

－　　－　　－

科目区分	心理学科専門教育科目						
科目名	心理学演習B						
担当教員	大和田　攝子						
学期	後期／2nd　semester	曜日・時限	月曜3	配当学年	3	単位数	2.0

授業のテーマ	卒業論文のテーマの決定と研究計画の立案
授業の概要	各自の関心のあるテーマについての文献を講読し、研究の方法や結果の分析について学習する。毎回担当者を決め、各自で選んだ論文の内容を紹介し、受講生全員で議論を深める。最終的には、各自の興味に沿って卒業研究のテーマを絞り込むことを目的とする。
到達目標	卒業論文のテーマを決め、研究計画を立てること。
授業計画	第1回：文献研究に関する発表と討議（1） 第2回：文献研究に関する発表と討議（2） 第3回：文献研究に関する発表と討議（3） 第4回：文献研究に関する発表と討議（4） 第5回：文献研究に関する発表と討議（5） 第6回：文献研究に関する発表と討議（6） 第7回：文献研究に関する発表と討議（7） 第8回：文献研究に関する発表と討議（8） 第9回：文献研究に関する発表と討議（9） 第10回：文献研究に関する発表と討議（10） 第11回：文献研究に関する発表と討議（11） 第12回：文献研究に関する発表と討議（12） 第13回：研究計画に関する発表と討議（1） 第14回：研究計画に関する発表と討議（2） 第15回：研究計画に関する発表と討議（3）
授業外における学習（準備学習の内容）	授業は受講生の発表が中心となるので、発表者は担当する文献を熟読し、レジュメを用意すること。
授業方法	演習
評価基準と評価方法	発表内容や討論への参加（20%）、レポート（20%）、平常点（60%）などを総合的に評価する。
教科書	
参考書	授業中に紹介する。

－　　－　　－

科目区分	心理学科専門教育科目						
科目名	心理学演習B						
担当教員	久津木　文						
学期	後期／2nd　semester	曜日・時限	月曜3	配当学年	3	単位数	2.0

授業のテーマ	発達心理学の演習。
授業の概要	心理学演習A（前期）から引き続き、個別のテーマに沿って文献を読み、討議を重ね、考察を深めるのが目的である。
到達目標	卒論につながるテーマ及び研究法を調べる。 具体的な調査方法を検討し、次年度すぐ調査・実験が開始できるようになる。
授業計画	１．夏休み中の課題の提出及びテーマの修正など ２．個人発表とディスカッション１ ３．個人発表とディスカッション２ ４．個人発表とディスカッション３ ５．文献検索・収集１ ６．文献検索・収集２ ７．個人発表とディスカッション（文献）４ ８．個人発表とディスカッション（文献）５ ９．個人発表とディスカッション（文献）６ １０．興味のテーマ発表とディスカッション１ １１．興味のテーマの発表とディスカッション２ １２．興味のテーマの発表とディスカッション３ １３．個人発表とディスカッション（研究計画） １４．個人発表とディスカッション（研究計画） １５．個人発表とディスカッション（研究計画）
授業外における学習（準備学習の内容）	次年度行う調査・実験につながるよう時間外も個人で文献調査などを進めておく必要あり。
授業方法	ゼミナール方式
評価基準と評価方法	授業態度（２０％）、課題への取り組み（８０％）
教科書	プリントを配布する
参考書	プリントを配布する

－　　－　　－

科目区分	心理学科専門教育科目						
科目名	心理学演習B						
担当教員	黒崎　優美						
学期	後期／2nd　semester	曜日・時限	月曜3	配当学年	3	単位数	2.0

授業のテーマ	卒業研究
授業の概要	目的：　心理学演習Aに引き続き、次年度の卒業研究に向けて、研究テーマを確定し、具体的な研究計画を作成することを目的とします。 概要：　対人関係に関わる問題を中心に、興味のあるテーマについて文献を調べ、まとめた内容を発表し、全体討議を行います。活動は基本的に数名のグループで行います。
到達目標	設定した一つのテーマを深く探求し、その内容を相手に伝えるという課題を通して、心理学的研究法やテーマについて専門的知識を得るだけでなく、主体性、チームワーク、プレゼン力など、社会人として必要とされる基本的能力についても習得することを目指します。
授業計画	第１回　今後の研究の進め方について 第２回　問題と仮説(1)　～研究テーマ近接領域の文献研究～ 第３回　問題と仮説(2)　～既存尺度の比較検討～ 第４回　問題と仮説(3)　～質問紙作成～ 第５回　問題と仮説(4)　～発表用資料製作１～ 第６回　問題と仮説(5)　～発表用資料製作２～ 第７回　問題と仮説(6)　～発表と全体討議１～ 第８回　問題と仮説(7)　～発表と全体討議２～ 第９回　調査準備(1)　～質問紙の修正～ 第10回　調査準備(2)　～質問紙の仕上げ～ 第11回　データ処理法について 第12回　データ入力(1) 第13回　データ入力(2) 第14回　データ入力(3) 第15回　まとめと来年度に向けての課題 注）学外での研究活動を含む
授業外における学習（準備学習の内容）	ゼミ内での分担作業、発表準備など、授業外活動は多くなります。
授業方法	ゼミ形式
評価基準と評価方法	授業やチームへの参加・貢献度を総合的に評価します。
教科書	「目に見えない人と人との繋がりをはかる－原子価査定テスト(VAT)の手引き」ハフシ・メッド著　ナカニシヤ出版　2010.
参考書	適宜紹介します。

－　　－　　－

科目区分	心理学科専門教育科目						
科目名	心理学演習B						
担当教員	寺井　さち子						
学期	後期／2nd　semester	曜日・時限	月曜3	配当学年	3	単位数	2.0

授業のテーマ	前期で身についた学習力をさらに培い、次年度の卒業研究作成の基礎能力を養う。
授業の概要	乳児期から思春期の子どもについての心理学的理解を深める。 乳児期から思春期青年期までの子どもを主たる対象とし、発達心理学を含めた全般的な子ども理解を行う。さらに精神分析的発達論、子どもの問題行動や症状が示す意味・心理的メカニズムについての臨床的学びへと進む。具体的には①発達障害、②情緒障害、③不登校や引きこもり、④その他子どもの心理的問題を取り上げる。 　そうした1年間の授業の流れを踏まえ、各学生は自らそれぞれ興味ある書籍や論文を選んで勉強を進め、発表担当日には要約のレジメを用意して口頭発表を行う。最終的には、各自の興味に沿って卒業研究のテーマを絞り込むことを目的とする。
到達目標	興味を抱く学術論文を探し読みこなせるようになること。
授業計画	15.情緒障害について学習・発表。 16.現代の子どもの状況①（乳児期）について学習・発表。 17.現代の子どもの状況②（幼児期）について学習・発表。 18.現代の子どもの状況③（学童期）について学習・発表。 19.現代の思春期・青年期の状況①について学習・発表。 20.現代の思春期・青年期の状況②について学習・発表。 21.卒論取組みの準備。①テーマ探し。 22.卒論取組みの準備。②テーマについて討議。 23.卒論取組みの準備。③テーマについて発表。 24.卒論テーマに添って学習を深める。 25.卒論テーマに添って学習を深める。 26.卒論テーマに添って深めた学習を順次発表。 27.卒論テーマに添って深めた学習を順次発表。 28.次年度に向けて計画書を試案。 29.次年度に向けて研究計画を発表。 30.卒論研究計画書の作成・提出。
授業外における学習（準備学習の内容）	日頃から図書館に通い、学術論文雑誌に目を通すこと。
授業方法	学生が自発的に文献を選びレジメに纏めてきたものを発表する演習の形式を中心とする。
評価基準と評価方法	平常点を50%とし、欠席あるいは発表回数の不足がある場合は減点する。
教科書	特定の教科書は使用しない。
参考書	必要に応じて授業中に紹介するが、学生各自が積極的に興味ある書籍を見つけて学習することが前提となる。

－　　－　　－

科目区分	心理学科専門教育科目						
科目名	心理学演習B						
担当教員	土肥　伊都子						
学期	後期／2nd　semester	曜日・時限	月曜3	配当学年	3	単位数	2.0

授業のテーマ	社会心理学研究の習得と，自らの研究計画の作成
授業の概要	自分の関心のあるテーマに関する社会心理学の最近の研究を、雑誌論文（「心理学研究」、「社会心理学研究」、「実験社会心理学研究」など）の中から選び、まとめ、発表する。 卒業論文のテーマを具体化していく。
到達目標	卒業論文の研究計画を立てること。
授業計画	第１回　個人発表と討論　（夏季休暇中の課題の提出） 第２回　文献（先行研究論文）収集 第３回　個人発表と討論１　（研究計画案） 第４回　個人発表と討論２　（研究計画案） 第５回　個人発表と討論３　（研究計画案） 第６回　個人発表と討論４　（研究計画案） 第７回　個人発表と討論５　（雑誌論文のまとめと，仮説作成） 第８回　個人発表と討論６　（雑誌論文のまとめと，仮説作成） 第９回　個人発表と討論７　（雑誌論文のまとめと，仮説作成） 第１０回　個人発表と討論８　（雑誌論文のまとめと，仮説作成） 第１１回　個人発表と討論９　（雑誌論文のまとめと，仮説作成） 第１２回　個人発表と討論１０（雑誌論文のまとめと，仮説作成） 第１３回　個人発表と討論１１（雑誌論文のまとめと，仮説作成） 第１４回　研究計画書の作成１ 第１５回　研究計画書の作成２
授業外における学習（準備学習の内容）	自分の研究計画に関連した情報を幅広く収集するために，日頃から新聞などに目を通す。
授業方法	ゼミナール形式
評価基準と評価方法	平常点１００％
教科書	
参考書	

－　　－　　－

科目区分	心理学科専門教育科目						
科目名	心理学演習B						
担当教員	中村　博文						
学期	後期／2nd　semester	曜日・時限	月曜3	配当学年	3	単位数	2.0

授業のテーマ	卒業研究のテーマ決定
授業の概要	心理学演習Aに引き続き，受講生各自が興味をもつ臨床心理学のテーマについて，内外の文献を取り上げ，発表・討論を行うことで，テーマについての理解をさらに深める。 その上で，最終的に卒業論文のテーマを決定し，研究計画を立案することを目的とする。
到達目標	卒業研究のテーマ決定と，研究計画の作成。
授業計画	#01：演習の進め方についてのオリエンテーション #02：受講生による発表と討論－1周目の① #03：受講生による発表と討論－1周目の② #04：受講生による発表と討論－1周目の③ #05：1周目の発表についての全体講評とディスカッション #06：受講生による発表と討論－2周目の① #07：受講生による発表と討論－2周目の② #08：受講生による発表と討論－2周目の③ #09：2周目の発表についての全体講評とディスカッション #10：受講生による発表と討論－3周目の① #11：受講生による発表と討論－3周目の② #12：受講生による発表と討論－3周目の③ #13：3周目の発表についての全体講評とディスカッション #14：卒業研究計画書と文献リストの提出① #15：卒業研究計画書と文献リストの提出②
授業外における学習（準備学習の内容）	それぞれ関心がある領域についての文献を検索し，発表資料としてまとめること。
授業方法	演習形式。 毎回，数名ずつ（受講人数によりその数は異なる）発表を行い，それに基づいて全員での討論を行う。発表・討論ともに，積極的に取り組むことを求める。
評価基準と評価方法	発表（60%），および討論への参加態度（40%）により評価を行う。
教科書	指定しない。
参考書	適時紹介する。

－　　－　　－

科目区分	心理学科専門教育科目						
科目名	心理学演習B						
担当教員	待田　昌二						
学期	後期／2nd　semester	曜日・時限	月曜3	配当学年	3	単位数	2.0

授業のテーマ	心理学の研究方法と分析方法の習得
授業の概要	心理学演習Ａに引き続き、心理学の専門的な知識の集め方、研究方法について学ぶとともに、 自身の研究テーマを見つけることを目的とした授業です。各受講生が自身の研究テーマを決定し、 研究方法を考え、授業で発表して議論していく中で、研究テーマと方法を明確にしていき、 予備調査を行ってデータを集めます。そして、データの分析方法、結果の示し方を習得して、 調査結果を発表するということを体験します。
到達目標	テーマを設定し、研究方法と分析方法を考えてレポートにまとめる。
授業計画	第１回　研究テーマについて考える 第２回　研究テーマの発表 第３回　研究方法について考える 第４回　研究方法の立案 第５回　データの収集 第６回　データの入力 第７回　データの集計 第８回　データの分析 第９回　結果の図や表での表示 第10回　結果の書き方 第11回　考察の書き方 第12回　調査結果の発表（１） 第13回　調査結果の発表（２） 第14回　調査結果の発表（３） 第15回　調査結果の発表（４）
授業外における学習（準備学習の内容）	研究方法を考え、データ収集し、Excelを用いた分析を行う。
授業方法	演習
評価基準と評価方法	授業中での発表など平常点60%と期末レポート40%
教科書	使用しない
参考書	

－　　－　　－

科目区分	心理学科専門教育科目						
科目名	心理学概論						
担当教員	土肥　伊都子						
学期	後期／2nd　semester	曜日・時限	金曜3	配当学年	1	単位数	2.0

授業のテーマ	心理学という学問の概要，方法について学ぶ
授業の概要	心理学の幅広い分野を，教科書の内容にそって学習する．これにより，心理学という学問は，心のはたらきを「行動」として捉え，その法則を科学的に定立するものであることが理解できる．また，授業時間の一部を使ってできる，簡単な実験や質問紙調査を行い，自己分析も行う．
到達目標	現代心理学の全体像を知ること。 心理学における実証的アプローチを理解すること。
授業計画	第１回　　科学としての心理学 第２回　　知覚 第３回　　学習 第４回　　記憶 第５回　　認知とスキーマ 第６回　　思考 第７回　　パーソナリティ（１） 第８回　　パーソナリティ（２） 第９回　　発達（１） 第１０回　　発達（２） 第１１回　　知能 第１２回　　対人魅力 第１３回　　心の健康，ストレス 第１４回　　集団行動 第１５回　　まとめと試験
授業外における学習（準備学習の内容）	授業の該当部分の教科書を，予習・復習として読む。
授業方法	講義形式
評価基準と評価方法	平常点３０％，　定期試験７０％
教科書	「現代心理学への招待」 塚本伸一・堀　耕治（編著）（樹村房）
参考書	

－　　－　　－

科目区分	心理学科専門教育科目						
科目名	心理学基礎実習A						
担当教員	久津木　文						
学期	前期／1st　semester	曜日・時限	火曜3～4	配当学年	1	単位数	2.0

授業のテーマ	心理学の基礎を実験で体験する
授業の概要	基礎心理学分野を中心に心理学の研究方法の基礎について学ぶ。具体的には、少人数クラス編成において、感覚・知覚、記憶、社会的影響など各分野の小実験を実験者または被験者として参加しながら体験し、実験的技法や実証的技法を体得することを目的としている。
到達目標	実施した実験についてのレポートの作成を通じて、問題の設定、研究方法の選択、実験データの分析とグラフ化、考察の仕方を習得する。
授業計画	第３回から第14回の授業内容はクラスによって順序が異なります。 第１回　オリエンテーションと実験 第２回　実験の解説とレポートの書き方 第３回　同調行動 第４回　同調行動自由実験 第５回　ストループ 第６回　ストループ自由実験 第７回　要求水準 第８回　要求水準自由実験 第９回　ＳＤ法＆質問紙 第10回　ＳＤ法＆質問紙自由実験 第11回　ＳＤ法＆質問紙自由実験分析 第12回　自由実験（課題作成１） 第13回　自由実験（実験作成２） 第14回　自由実験（論文作成） 第15回　まとめと反省
授業外における学習（準備学習の内容）	レポートの多くは授業時間外に作成することになる。
授業方法	実習
評価基準と評価方法	授業への取り組み５０％＆レポート課題の評価５０％
教科書	
参考書	

－　　－　　－

科目区分	心理学科専門教育科目						
科目名	心理学基礎実習B						
担当教員	久津木　文						
学期	後期／2nd　semester	曜日・時限	火曜3～4	配当学年	1	単位数	2.0

授業のテーマ	心理学の基礎を体験して理解する。
授業の概要	基礎心理学分野を中心に心理学の研究方法の基礎について学ぶ。具体的には、少人数クラス編成において、感覚・知覚、記憶、社会的影響など各分野の小実験を実験者または被験者として参加しながら体験し、実験的技法や実証的技法を体得することを目的としている。
到達目標	実験実施及びレポート作成をとおして心理学で必要な基本的な知識とまとめかたを習得する。
授業計画	第１回　パーソナルスペース 第２回　自由実験パーソナルスペース 第３回　ミュラー・リアー錯視 第４回　自由実験ミュラー・リアー錯視 第５回　両側性転移 第６回　自由実験　両側性転移 第７回　情報の伝達と変容 第８回　自由実験　情報の伝達と変容 第９回　ストループ 第11回　自由実験　ストループ 第12回　自由実験（課題作成１） 第13回　自由実験（実験作成２） 第14回　自由実験（論文作成） 第15回　まとめと反省
授業外における学習（準備学習の内容）	レポートの作成は時間外に行う必要がある。
授業方法	実習
評価基準と評価方法	授業への取り組み５０％＆レポート課題と最終課題の内容50%
教科書	
参考書	

－　　－　　－

科目区分	心理学科専門教育科目						
科目名	心理学上級演習I／心理学特別演習I						
担当教員	待田　昌二						
学期	後期／2nd　semester	曜日・時限	火曜5	配当学年	3	単位数	2.0

授業のテーマ	基礎系心理学の諸概念や用語の正確な理解
授業の概要	大学院進学など心理学のより高い専門性を目指す学生を対象とした授業。 心理系大学院の過去問を題材として、基礎系の心理学の諸概念や用語の正確な理解を目指すことを主な目的としている。加えて、基礎系の心理学の外国語過去問を題材として、心理学の専門書・論文を読みこなす上で必要な英語読解力の向上も行う。
到達目標	基礎系心理学の知識に関して、心理系大学院受験に必要なレベルに到達すること
授業計画	第１回　心理学の歴史 第２回　知覚 第３回　認知 第４回　学習１：条件づけ 第５回　学習２：様々な学習 第６回　記憶 第７回　動機づけと情動 第８回　知能 第９回　性格 第10回　初期発達 第11回　発達の理論 第12回　社会的認知 第13回　社会と人間 第14回　コミュニケーション 第15回　統計
授業外における学習（準備学習の内容）	毎回予習課題を出し、課題について調べたレポートの提出を求める
授業方法	演習
評価基準と評価方法	期末試験が60%、通常授業時の課題提出・小テストなど平常点40%
教科書	使用しない
参考書	授業中に指示する

－　　－　　－

科目区分	心理学科専門教育科目						
科目名	心理学上級演習II／心理学特別演習II						
担当教員	黒崎　優美						
学期	前期／1st　semester	曜日・時限	火曜4	配当学年	4	単位数	2.0

授業のテーマ	大学院進学対策
授業の概要	目的：　大学院進学などに向けた、より専門性の高い心理学的知識の習得を目的とします。 概要：　過去の入試問題（特に臨床心理学領域）を主な教材として使用し、単に問題を解くだけでなく、応用力まで身につけられるよう指導を行います。
到達目標	臨床心理学系大学院入試に必要な専門知識を幅広く習得することにより、今後の臨床や研究の方向性についても見定め明確にすることを目指す。
授業計画	第１回　心理系大学院入試の動向と対策 第２回　人格論 第３回　発達論と発達障害(1) 第４回　発達論と発達障害(2) 第５回　発達論と発達障害(2) 第６回　精神病理(1) 第７回　精神病理(2) 第８回　精神病理(3) 第９回　心理査定(1) 第10回　心理査定(2) 第11回　心理査定(3) 第12回　心理療法(1) 第13回　心理療法(2) 第14回　心理療法(3) 第15回　まとめ
授業外における学習（準備学習の内容）	次回のテーマに関わる入試過去問題を課題とします。
授業方法	演習
評価基準と評価方法	授業への参加意欲・貢献の程度 50%、課題・提出物等 50%
教科書	プリントを配布します。
参考書	適宜紹介します。

－　　－　　－

科目区分	心理学科専門教育科目						
科目名	心理テストA／心理検査法I						
担当教員	大和田　攝子						
学期	前期／1st　semester	曜日・時限	水曜2	配当学年	2～3	単位数	2.0

授業のテーマ	知能検査と性格検査（質問紙法・作業検査法）について学ぶ。
授業の概要	心理アセスメントをする際によく用いられる検査として、知能・発達検査や性格検査がある。本講義では主に知能検査と性格検査（質問紙法・作業検査法）を取り上げ、その理論的背景、実施法、結果の解釈について講義と実習を中心に授業を進める。
到達目標	各検査について、実施法や結果の解釈について理解できるようになること。
授業計画	第1回：概論（1）－心理査定とは何か－ 第2回：概論（2）－心理検査の種類と特色－ 第3回：田中ビネー式知能検査（1）解説・実施法 第4回：田中ビネー式知能検査（2）実施法 第5回：田中ビネー式知能検査（3）実施法 第6回：田中ビネー式知能検査（4）結果の処理 第7回：ウェクスラー式知能検査（1）解説・実施法 第8回：ウェクスラー式知能検査（2）実施法 第9回：ウェクスラー式知能検査（3）実施法 第10回：ウェクスラー式知能検査（4）結果の処理 第11回：Y-G性格検査 第12回：MMPI（1）解説・実施法 第13回：MMPI（2）結果の処理 第14回：内田クレペリン精神作業検査 第15回：SDS職業適性診断テスト
授業外における学習（準備学習の内容）	授業時間内に検査の実施や結果の処理が終わらないこともあるので、次の授業までに作業を終わらせておくこと。
授業方法	講義と実習
評価基準と評価方法	レポート（40%）と平常点（60%）を総合的に評価する。
教科書	プリントを配布する。
参考書	松原達哉（編著）『心理テスト法入門　第4版』（日本文化科学社）ISBN4-8210-6360-3

－　　－　　－

科目区分	心理学科専門教育科目						
科目名	心理テストA／心理検査法I						
担当教員	大和田　攝子						
学期	前期／1st　semester	曜日・時限	水曜3	配当学年	2～3	単位数	2.0

授業のテーマ	知能検査と性格検査（質問紙法・作業検査法）について学ぶ。
授業の概要	心理アセスメントをする際によく用いられる検査として、知能・発達検査や性格検査がある。本講義では主に知能検査と性格検査（質問紙法・作業検査法）を取り上げ、その理論的背景、実施法、結果の解釈について講義と実習を中心に授業を進める。
到達目標	各検査について、実施法や結果の解釈について理解できるようになること。
授業計画	第1回：概論（1）－心理査定とは何か－ 第2回：概論（2）－心理検査の種類と特色－ 第3回：田中ビネー式知能検査（1）解説・実施法 第4回：田中ビネー式知能検査（2）実施法 第5回：田中ビネー式知能検査（3）実施法 第6回：田中ビネー式知能検査（4）結果の処理 第7回：ウェクスラー式知能検査（1）解説・実施法 第8回：ウェクスラー式知能検査（2）実施法 第9回：ウェクスラー式知能検査（3）実施法 第10回：ウェクスラー式知能検査（4）結果の処理 第11回：Y-G性格検査 第12回：MMPI（1）解説・実施法 第13回：MMPI（2）結果の処理 第14回：内田クレペリン精神作業検査 第15回：SDS職業適性診断テスト
授業外における学習（準備学習の内容）	授業時間内に検査の実施や結果の処理が終わらないこともあるので、次の授業までに作業を終わらせておくこと。
授業方法	講義と実習
評価基準と評価方法	レポート（40%）と平常点（60%）を総合的に評価する。
教科書	プリントを配布する。
参考書	松原達哉（編著）『心理テスト法入門　第4版』（日本文化科学社）ISBN4-8210-6360-3

－　　－　　－

科目区分	心理学科専門教育科目						
科目名	心理テストB／心理検査法II						
担当教員	中村　博文						
学期	後期／2nd　semester	曜日・時限	水曜2	配当学年	2～3	単位数	2.0

授業のテーマ	投映法の学習
授業の概要	「投映法」といわれる一連の心理検査法について学習する。 具体的には，描画法，文章完成法（SCT），PFスタディ，ロールシャッハ・テスト，TAT（主題統覚検査）などについて，それらの特徴，実施法，整理法，解釈法といったことを，実習を通じて学ぶ。
到達目標	様々な投映法心理検査について，被検者体験をすることができる。また，それぞれの検査について，整理法，解釈法などを知ることができる。
授業計画	#01：オリエンテーション－投映法とは？ #02：描画法①－バウム・テスト #03：描画法②－人物画テスト #04：描画法③－S-HTP #05：描画法④－風景構成法 #06：SCT①－理論と施行法 #07：SCT②－結果の整理と解釈 #08：PFスタディ①－理論と施行法 #09：PFスタディ②－結果の整理(1) #10：PFスタディ③－結果の整理(2) #11：PFスタディ④－結果の整理(3) #12：PFスタディ⑤－結果の解釈 #13：ロールシャッハ・テスト #14：TAT（主題統覚検査） #15：まとめ，レポート提出
授業外における学習（準備学習の内容）	授業時間だけでは検査の実施，および整理が終わらない場合もある。指示にしたがって，次の授業までに課題を終えておくこと。 授業各回で扱う投映法心理検査について，配付資料に記載されている参考文献を読み，理解を深めることを求める。
授業方法	講義，および実習形式。 投映法心理検査を体験し，それを整理，解釈する。 毎回授業の最後に，小レポート（問いに対する回答，質問，感想）の提出を求める。
評価基準と評価方法	平常点（30%），小レポート（30%），および検査実習レポート（40%）により評価する。
教科書	必要に応じて，プリントを配布する。
参考書	適時紹介する。

－　　－　　－

科目区分	心理学科専門教育科目						
科目名	心理テストB／心理検査法II						
担当教員	中村　博文						
学期	後期／2nd　semester	曜日・時限	水曜3	配当学年	2～3	単位数	2.0

授業のテーマ	投映法の学習
授業の概要	「投映法」といわれる一連の心理検査法について学習する。 具体的には，描画法，文章完成法（SCT），PFスタディ，ロールシャッハ・テスト，TAT（主題統覚検査）などについて，それらの特徴，実施法，整理法，解釈法といったことを，実習を通じて学ぶ。
到達目標	様々な投映法心理検査について，被検者体験をすることができる。また，それぞれの検査について，整理法，解釈法などを知ることができる。
授業計画	#01：オリエンテーション－投映法とは？ #02：描画法①－バウム・テスト #03：描画法②－人物画テスト #04：描画法③－S-HTP #05：描画法④－風景構成法 #06：SCT①－理論と施行法 #07：SCT②－結果の整理と解釈 #08：PFスタディ①－理論と施行法 #09：PFスタディ②－結果の整理(1) #10：PFスタディ③－結果の整理(2) #11：PFスタディ④－結果の整理(3) #12：PFスタディ⑤－結果の解釈 #13：ロールシャッハ・テスト #14：TAT（主題統覚検査） #15：まとめ，レポート提出
授業外における学習（準備学習の内容）	授業時間だけでは検査の実施，および整理が終わらない場合もある。指示にしたがって，次の授業までに課題を終えておくこと。 授業各回で扱う投映法心理検査について，配付資料に記載されている参考文献を読み，理解を深めることを求める。
授業方法	講義，および実習形式。 投映法心理検査を体験し，それを整理，解釈する。 毎回授業の最後に，小レポート（問いに対する回答，質問，感想）の提出を求める。
評価基準と評価方法	平常点（30%），小レポート（30%），および検査実習レポート（40%）により評価する。
教科書	必要に応じて，プリントを配布する。
参考書	適時紹介する。

－　　－　　－

科目区分	心理学科専門教育科目						
科目名	統計基礎論／心理統計法						
担当教員	三船　恒裕						
学期	前期／1st　semester	曜日・時限	火曜2	配当学年	2～3	単位数	2.0

授業のテーマ	統計を「使う」
授業の概要	心理学では，実験や調査によってデータを収集し，それを統計的に分析することで意味のある結果を見いだし，そこから人間の心のありようを推測します。従って，心理学を学ぶ上で統計学の知識は欠かせないものです。ただし，必ずしも学問としての「統計学」を隅々まで理解する必要はありません。本講義では極力数式による説明をせずに，統計学的な知識を用いてデータを解釈する，そのエッセンスを理解できるよう進めていきます。
到達目標	統計学的知識を用いてデータを解釈できるようになります。様々なタイプのデータがあることを理解し，そうしたデータの意味や，そのデータから推測できることを学ぶことで，心理学的なデータを分析する方法を習得します。
授業計画	第一回 統計を学ぶ目的 第二回 変数とデータ 第三回 度数分布の表し方 第四回 代表値 第五回 散布度 第六回 正規分布 第七回 中間テスト 第八回 相関 第九回 相関と因果 第十回 記述統計と推測統計 第十一回 統計的検定の基本的な考え方 第十二回 統計的検定の基本用語 第十三回 量的変数の差の検定 第十四回 質的変数の差の検定 第十五回 まとめと質疑応答
授業外における学習（準備学習の内容）	必要に応じて、図書館にある本などで統計について勉強してください。講義で扱った内容を別な形で説明しているものもあります。そうしたものに目を通すことで講義の内容に関してさらに理解が進みます。また、講義の内容を復習し、疑問が出て来たら次の回で質問し、しっかりと理解することが大切です。
授業方法	講義
評価基準と評価方法	平常点３０％、中間テスト３０％、期末テスト４０％
教科書	
参考書	「本当にわかりやすいすごく大切なことが書いてあるごく初歩の統計の本」吉田寿夫(著) 北大路書房

－　　－　　－

科目区分	心理学科専門教育科目						
科目名	統計基礎論／心理統計法						
担当教員	三船　恒裕						
学期	後期／2nd　semester	曜日・時限	火曜2	配当学年	2～3	単位数	2.0

授業のテーマ	統計を「使う」
授業の概要	心理学では，実験や調査によってデータを収集し，それを統計的に分析することで意味のある結果を見いだし，そこから人間の心のありようを推測します。従って，心理学を学ぶ上で統計学の知識は欠かせないものです。ただし，必ずしも学問としての「統計学」を隅々まで理解する必要はありません。本講義では極力数式による説明をせずに，統計学的な知識を用いてデータを解釈する，そのエッセンスを理解できるよう進めていきます。
到達目標	統計学的知識を用いてデータを解釈できるようになります。様々なタイプのデータがあることを理解し，そうしたデータの意味や，そのデータから推測できることを学ぶことで，心理学的なデータを分析する方法を習得します。
授業計画	第一回 統計を学ぶ目的 第二回 変数とデータ 第三回 度数分布の表し方 第四回 代表値 第五回 散布度 第六回 正規分布 第七回 中間テスト 第八回 相関 第九回 相関と因果 第十回 記述統計と推測統計 第十一回 統計的検定の基本的な考え方 第十二回 統計的検定の基本用語 第十三回 量的変数の差の検定 第十四回 質的変数の差の検定 第十五回 まとめと質疑応答
授業外における学習（準備学習の内容）	必要に応じて、図書館にある本などで統計について勉強してください。講義で扱った内容を別な形で説明しているものもあります。そうしたものに目を通すことで講義の内容に関してさらに理解が進みます。また、講義の内容を復習し、疑問が出て来たら次の回で質問し、しっかりと理解することが大切です。
授業方法	講義
評価基準と評価方法	平常点３０％、中間テスト３０％、期末テスト４０％
教科書	
参考書	「本当にわかりやすいすごく大切なことが書いてあるごく初歩の統計の本」吉田寿夫(著) 北大路書房

－　　－　　－

科目区分	心理学科専門教育科目						
科目名	心理の仕事						
担当教員	単位認定者：中村　博文						
学期	前期／1st　semester	曜日・時限	金曜4	配当学年	2～3	単位数	2.0

授業のテーマ	職業としての心理学
授業の概要	心理学の専門性を活かして様々な現場で活躍する職業人に，オムニバス形式で講義をお願いする。
到達目標	社会の中の様々な領域で，心理学の知識がどのように活かされているかを具体的に知ることができる。 また，そのことを通じて，自分自身の将来像を描けるようになる。
授業計画	#01：イントロダクション #02：心療内科クリニックにおける心理援助という仕事 #03：犯罪被害者の支援という仕事 #04：精神科病院における心理援助という仕事 #05：緩和ケアにおける心理援助という仕事 #06：心理学の知識を活用した企業での仕事(1) #07：心理学の知識を活用した企業での仕事(2) #08：私設心理相談室での心理援助という仕事 #09：情緒障害児短期療養施設での心理援助という仕事 #10：教育センターでの心理援助という仕事 #11：アニマルセラピーによる心理援助という仕事 #12：総合病院における心理援助という仕事 #13：児童相談所における心理援助という仕事 #14：家庭裁判所調査官という仕事 #15：総括
授業外における学習（準備学習の内容）	各回の話に関連する文献を検索し，読むことで，それぞれの領域についての理解を深めることを求める。
授業方法	オムニバスの講義形式。
評価基準と評価方法	平常点（50%），ならびに毎回の小レポート（50%）により評価する。
教科書	指定しない。
参考書	指定しない。

－　　－　　－

科目区分	心理学科専門教育科目						
科目名	心理療法I						
担当教員	中村　博文						
学期	前期／1st　semester	曜日・時限	月曜2	配当学年	3～4	単位数	2.0

授業のテーマ	精神分析と精神分析的心理療法
授業の概要	精神分析とは，Freud，S.により創始された心理学理論，かつその理論に基づく心理学的援助技法の体系である。また，精神分析の考え方や技法を基盤として行われる心理療法を，精神分析的心理療法という。 この授業では，精神分析の基本的な考え方を学ぶとともに，精神分析的心理療法の実際について学習する。
到達目標	精神分析の基本的な考え方や概念について，理解することができる。 精神分析や精神分析的心理療法の技法について，知ることができる。
授業計画	#01：オリエンテーションー精神分析・精神分析的心理療法とは？ #02：精神分析の基本的観点①：局所論／構造論 #03：精神分析の基本的観点②：力動論 #04：精神分析の基本的観点③：経済論 #05：精神分析の基本的観点④：発達論 #06：精神分析の発展①：アドラーとユング #07：精神分析の発展②：精神分析の学派(1)－自我心理学・対象関係論 #08：精神分析の発展③：精神分析の学派(2)－自己心理学・対人関係論 #09：精神分析の発展④：対象の拡大 #10：精神分析と精神分析的心理療法①：精神分析の基礎にあるもの #11：精神分析と精神分析的心理療法②：精神分析の技法(1) #12：精神分析と精神分析的心理療法③：精神分析の技法(2) #13：精神分析と精神分析的心理療法④：精神分析の新しい流れ #14：まとめ，試験 #15：試験解題
授業外における学習（準備学習の内容）	授業各回のテーマについて，配付資料に記載されている参考文献を読み，理解を深めることを求める。
授業方法	講義形式。 毎回授業の最後に，小レポート（問いに対する回答，質問，感想）の提出を求める。
評価基準と評価方法	毎回の小レポート（14%），および期末試験（86%）により評価する。
教科書	必要に応じて，プリントを配布する。
参考書	適時紹介する。

－　　－　　－

科目区分	心理学科専門教育科目						
科目名	心理療法II						
担当教員	寺井　さち子						
学期	後期／2nd　semester	曜日・時限	金曜2	配当学年	3～4	単位数	2.0

授業のテーマ	子どもが呈する様々な病理を学び、心理療法の意義を知る。
授業の概要	乳幼児から青年期に至る発達途上の子どもの心理症状や病理、障害について正しい理解を得る。
到達目標	子どもの問題について一定の知識を得ること。
授業計画	１．オリエンテーション　シラバスの紹介と合意 ２．子どもの心の問題を考えるには ３．症状について ４．主に乳幼児から幼児期に見られる症状①あやしても反応が弱い子 ５．乳幼児に見られる症状②親から離れにくい子 ６．アタッチメントのシグナル行動 ７．幼児期の子ども①遊びと心の発達 ８．遊べることの重要性 ９．幼児期の習癖異常①チック障害　②指しゃぶり、爪噛み 10．幼児期の習癖異常③抜毛症　④自慰 11．子どもと睡眠 12．排泄と心の問題 13．ヒステリーと癲癇 14．虚言癖や粗暴行為 15．総まとめと学んだ知識の定着
授業外における学習（準備学習の内容）	日頃から子どもたちの様子に関心を示し、テレビの子ども関連番組なども積極的に観ること。
授業方法	板書、DVDを中心に講義を中心にして授業を進める。
評価基準と評価方法	最終回の、到達度を見るテスト結果を主な評価の対象とする。
教科書	使用せず。
参考書	特になし。

－　　－　　－

科目区分	心理学科専門教育科目						
科目名	心理療法III						
担当教員	坂本　真佐哉						
学期	前期／1st　semester	曜日・時限	金曜3	配当学年	3～4	単位数	2.0

授業のテーマ	家族療法（システムズアプローチ）およびブリーフセラピーの理論と実際について学ぶ。
授業の概要	家族システムやコミュニケーション・システムの変化をめざした心理療法をはじめ、解決構築など近年の社会構成主義的心理療法の分野について実際の事例を交えながら講義を行う。心理療法における「問題」の捉え方とその解決に関する考え方などについて、システム論や社会構成主義の観点から学び、さまざまな角度から物事をとらえる視点や考え方を養う。
到達目標	家族療法（システムズアプローチ）およびブリーフセラピーの理論と実際に関する知識を獲得し、心理的な問題解決に関して広い視野をもつことができること。
授業計画	第１回：心理療法における「問題」の捉え方 第２回：さまざまな心理援助の技法と家族療法、ブリーフセラピー 第３回：家族療法の理論と実際（１）家族療法とシステム論 第４回：家族療法の理論と実際（２）家族療法の実際 第５回：ブリーフセラピー概論 第６回：ミルトン・エリクソンの心理療法 第７回：MRIモデルの理論と技法（１） 第８回：MRIモデルの理論と技法（２） 第９回：ソリューション・フォーカスト・アプローチの理論と技法（１） 第１０回：ソリューション・フォーカスト・アプローチの理論と技法（２） 第１１回：ソリューション・フォーカスト・アプローチの理論と技法（３） 第１２回：ナラティヴ・セラピー（１） 第１３回：ナラティヴ・セラピー（２） 第１４回：ブリーフセラピーの理論を用いたコミュニケーション・トレーニング 第１５回：試験と総括
授業外における学習（準備学習の内容）	家族療法およびブリーフセラピーに関する専門書を読むこと。
授業方法	講義形式
評価基準と評価方法	平常点30%、試験70%
教科書	
参考書	遊佐安一郎著「家族療法入門―システムズ・アプローチの理論と実際」星和書店 坂本真佐哉、和田憲明、東　豊著「心理療法テクニックのススメ」金子書房

－　　－　　－

科目区分	心理学科専門教育科目						
科目名	心理療法IV						
担当教員	安達　圭一郎						
学期	後期／2nd　semester	曜日・時限	火曜4	配当学年	3～4	単位数	2.0

授業のテーマ	対人関係療法（IPT）の技法的特徴や経過について概説する。
授業の概要	西洋諸国では、認知行動療法と双璧をなすエビデンスベイストな（科学的根拠のある）心理療法と言われている。本講義では、こうしたIPTの治療技法、治療経過、必要とされる治療者の態度などを概説し、一部ロールプレイも交えながら、学生のIPT理解を促したい。
到達目標	IPTそのものの習熟というよりも、IPTにおける治療者の役割や視点について学ぶ。
授業計画	第1回　オリエンテーション　講義概要と受講用件の確認 第2回　IPTとは①　概観と特徴 第3回　IPTとは②　目標と適用 第4回　IPTとは③　科学的根拠について 第5回　IPTとは④　治療者の役割と患者の役割 第6回　IPTの治療プロセス①　初期① 第7回　IPTの治療プロセス②　初期② 第8回　IPTの治療プロセス②　中期① 第9回　IPTの治療プロセス③　中期② 第10回　IPTの治療プロセス④　終結期 第11回　IPTによる治療事例①　うつ病患者に対する自験例 第12回　IPTによる治療事例②　社会不安性障害患者に対する自験例 第13回　IPTの応用　双極性障害、パーソナリティ障害、高齢者などへの応用 第14回　IPT技法のまとめ　IPTで用いられる技法の意味 第15回　まとめと試験
授業外における学習（準備学習の内容）	講義前にはテキストの該当箇所を読んでおくこと。
授業方法	講義方式と一部演習。
評価基準と評価方法	受講態度30%、期末試験70%
教科書	水島広子「臨床家のための対人関係療法入門ガイド」創元社
参考書	

－　　－　　－

科目区分	心理学科専門教育科目						
科目名	ジェンダーの心理学						
担当教員	土肥　伊都子						
学期	前期／1st　semester	曜日・時限	火曜3	配当学年	3～4	単位数	2.0

授業のテーマ	ジェンダー（男女の社会的役割）についての心理学を学ぶ
授業の概要	男女に対する固定観念が，ジェンダー・ステレオタイプである。本講義では、ジェンダー・ステレオタイプがなぜ作られ、それがどのように維持されるのか、あるいはいかに変容するかを社会心理学の知見に基づき学習する。
到達目標	個人の心の中にジェンダーが浸透していることに気づくこと。 その心の中のジェンダーによりステレオタイプが生まれ，ジェンダー社会を維持するしくみを理解すること。 ジェンダー・ステレオタイプから自由に生きるための方法を習得すること。
授業計画	第１回　ジェンダーへの心理学的アプローチ 第２回　セックスとジェンダー 第３回　ジェンダー・ステレオタイプの形成と維持 第４回　ジェンダー・スキーマ 第５回　集団とジェンダー・ステレオタイプ 第６回　性別分業社会とジェンダー・ステレオタイプ 第７回　ジェンダーの社会化（１） 第８回　ジェンダーの社会化（２） 第９回　夫婦，男女間のコミュニケーション 第１０回　ジェンダーによる心身への影響-女性の場合- 第１１回　ジェンダーによる心身への影響-男性の場合- 第１２回　心理学の学問におけるジェンダー・ステレオタイプ 第１３回　ジェンダー・ステレオタイプの軽減 第１４回　前期授業の質疑応答 第１５回　前期試験とまとめ
授業外における学習（準備学習の内容）	授業の前後に，教科書を読む。 授業で配布されたプリントを復習して，確実に理解する。
授業方法	講義形式
評価基準と評価方法	平常点３０％，定期試験７０％
教科書	「ジェンダーの心理学」 青野篤子・森永康子・土肥伊都子（著）（ミネルヴァ書房）
参考書	

－　　－　　－

科目区分	心理学科専門教育科目						
科目名	情報社会の心理学／情報社会の心理						
担当教員	福井　斉						
学期	前期／1st　semester	曜日・時限	火曜4	配当学年	3～4	単位数	2.0

授業のテーマ	情報社会の光と影が“心”に及ぼす影響について
授業の概要	インターネットや携帯電話の爆発的な普及は情報伝達の空間的、時間的距離を短縮しましたが、一方で情報への依存度も高まっています。この授業では、具体的なトピックを交えて情報社会の光と影が私たちの“心”に及ぼす影響について考察していきます。
到達目標	情報化の進展により社会生活やコミュニケーション行動の在り方に与えた変化を理解すること
授業計画	① ガイダンス　＋　コミュニケーションの変容 ② うわさ（Ⅰ）：うわさの普及過程 ③ うわさ（Ⅱ）：うわさへの対処法 ④ うわさ（Ⅲ）：くちコミと消費者行動 ⑤ うわさ（Ⅳ）：web上でのくちコミ ⑥ うわさ（Ⅴ）：ブランド ⑦ 流行現象：流行の普及過程 ⑧ 携帯電話とコミュニケーション（Ⅰ）：対人関係希薄化論 ⑨ 携帯電話とコミュニケーション（Ⅱ）：選択的対人関係論 ⑩ インターネットとコミュニケーション（Ⅰ）：インターネット・パラドックス ⑪ インターネットとコミュニケーション（Ⅱ）：フレーミング ⑫ 目撃証言：有用性と危険性 ⑬ リテラシー問題：情報活用力 ⑭ 情報社会の心理の総合的理解 ⑮ 試験と解説
授業外における学習（準備学習の内容）	特になし
授業方法	講義（毎回、レジュメを配布します）
評価基準と評価方法	期末試験と授業への取り組み姿勢（出席、授業態度、ミニレポート）、確認テストで総合的に評価 ＜評価の目安: 期末試験6割、授業への取り組み姿勢3割、確認テスト1割＞
教科書	テキスト：使用しない（適宜プリントを配布する）
参考書	

－　　－　　－

科目区分	心理学科専門教育科目						
科目名	児童期の臨床心理学／臨床心理学研究法II						
担当教員	寺井　さち子						
学期	前期／1st　semester	曜日・時限	金曜2	配当学年	2～3	単位数	2.0

授業のテーマ	児童期とはどういう時代であるべきかについて、じっくり考える機会とする。
授業の概要	臨床心理学的立場から、幅広く人の心についての理解を深める。 臨床実践的目的だけではなく、より広い視点に立ち、日頃からの子ども理解や子どもを育てる立場になった際に役立つような、子ども理解に関する幅広い内容を目指す。簡単なロールプレイ、エンカウンタープログラム、またディスカッションなどを盛り込み、講義と実践的体験を織り込んだ授業を展開する。
到達目標	学生たちの中にもある瑞々しい感性を活性化し、生き生きとした子どもの自己を蘇らせ、子ども理解につなげること。
授業計画	1.臨床心理の分野についての概説。 2.自分を知る試み　私ってだれ？ 3.精神的健康と自己のあり方。心理テスト実践。 4.子どもの絵を通して考える心理理解。 5.童謡や詩を通して考える心理① 6.絵本を通して考える心理①「怪獣達のいるところ」 7.絵本を通して考える心理②「100万回生きた猫」 8.童話を通して考える心理①「イソップ物語」から 9.童話を通して考える心理②「アルプスの少女ハイジ」 10.ビデオを通して考える心理「ポニョとトトロ」から 11.ビデオを通して考える心理「千と千寿の神隠し」から 12.児童文学を通して考える「星の王子様」から 13.世界の子供たちを知る 13.臨床における子どもについての解説 14.総合的講義 15.まとめと到達度確認(試験)
授業外における学習（準備学習の内容）	ボランティアに出るなど、子どもと積極的に触れ合うことが望まれる。
授業方法	講義も行うが、体験的プログラムが多いので、その積もりで出席すること。
評価基準と評価方法	評価は試験を中心に行うが、平常点30%とし、欠席の場合減点する。
教科書	必要に応じて適宜、プリントや本、ビデオ等学習材料を用意する。
参考書	特になし。

－　　－　　－

科目区分	心理学科専門教育科目						
科目名	人格心理学						
担当教員	日置　孝一						
学期	前期／1st　semester	曜日・時限	月曜2	配当学年	2～3	単位数	2.0

授業のテーマ	パーソナリティに関する諸理論の紹介
授業の概要	本講義ではヒトを理解するための基本的な枠組みとして，人格（パーソナリティ）に関する研究やその方法論を概括し，自分も含めたヒトについて，様々な角度から理解を深めることを目的とする．
到達目標	パーソナリティ形成に関わる心理モデルについて理解します．また，各種測定法・実験計画法など心理学の基礎的な知識を学びます．
授業計画	第１回目：人格（パーソナリティ）心理学とは 第２回目：定義 第３回目：研究史 第４回目：諸理論（１） 第５回目：諸理論（２） 第６回目：パーソナリティと発達（１） 第７回目：パーソナリティと発達（２） 第８回目：パーソナリティと対人関係 第９回目：パーソナリティと文化 第10回目：パーソナリティの測定法 第11回目：パーソナリティの変容（１） 第12回目：パーソナリティの変容（２） 第13回目：自分のパーソナリティを考える 第14回目：復習ならびに試験 第15回目：まとめ
授業外における学習（準備学習の内容）	授業用資料をweb上にアップします．授業前にダウンロードしておいてください．URLはhttp://www.b.kobe-u.ac.jp/~hioki/shoin/です．パスワードは初回に紹介します．
授業方法	講義
評価基準と評価方法	試験のみ
教科書	なし
参考書	講義中に紹介

－　　－　　－

科目区分	心理学科専門教育科目						
科目名	成人期・老年期の臨床心理学						
担当教員	中村　博文						
学期	後期／2nd　semester	曜日・時限	月曜2	配当学年	3～4	単位数	2.0

授業のテーマ	成人期・老年期の心理的課題と危機
授業の概要	本講義では，成人期および老年期における心理的な発達や発達課題，またこれらの時期に生じやすい問題や危機について概観する。その上で，それぞれの時期における臨床心理学的な援助について検討する。
到達目標	成人期ならびに老年期の心理学的特徴，またそれぞれの時期に生じやすい問題について，理解することができる。
授業計画	#01：オリエンテーション－生涯発達論的視座から見た成人期と老年期 #02：成人期の心理学的特徴と発達課題 #03：結婚・妊娠・出産 #04：子育て #05：職場における問題（1）：ストレスとメンタルヘルス #06：職場における問題（2）：うつ病と自殺 #07：老親の介護における心理的問題 #08：中値期危機 #09：老年期の心理学的特徴と発達課題 #10：認知症 #11：老年期うつと妄想 #12：老年期における喪失体験 #13：老年期における死の問題 #14：まとめ，試験 #15：試験解題
授業外における学習（準備学習の内容）	授業各回のテーマについて，配付資料に記載されている参考文献を読み，理解を深めることを求める。
授業方法	講義形式。 毎回授業の最後に，小レポート（問いに対する回答，質問，感想）の提出を求める。
評価基準と評価方法	毎回の小レポート（14%），および期末試験（86%）により行う。
教科書	必要に応じて，プリントを配布する。
参考書	適時紹介する。

－　　－　　－

科目区分	心理学科専門教育科目						
科目名	生と死の心理学						
担当教員	大和田　攝子						
学期	前期／1st　semester	曜日・時限	水曜4	配当学年	3～4	単位数	2.0

授業のテーマ	生と死を学ぶ。
授業の概要	病院やコミュニティなど臨床の場における生と死をめぐる問題について概観し、そこで必要とされる援助について考える。具体的には、末期患者の心理、病名告知、ホスピス緩和ケア、死別後の悲嘆、外傷的死別（犯罪、事故、自殺など）、グリーフカウンセリングなどを取り上げ、さまざまな観点から死についての理解を深める。また、臓器移植や妊娠中絶など生命倫理にも触れ、現代の死の諸相について広く学ぶ。講義の他に、ロールプレイなどの実習やビデオ教材も適宜取り入れる。
到達目標	誰もが避けることのできない死について心理学的に学ぶことで、実際に身近に起こったときにどのようにすればよいか学ぶことができる。
授業計画	第1回：対象喪失と悲嘆 第2回：通常の悲嘆反応と通常でない悲嘆反応 第3回：悲嘆に影響を及ぼす要因 第4回：実習（1）自らの体験に学ぶ 第5回：さまざまな喪失（1） 第6回：さまざまな喪失（2） 第7回：ケアを行う際の基本的姿勢 第8回：支援の方法 第9回：実習（2）グリーフカウンセリング 第10回：病名の告知 第11回：ホスピス緩和ケアとQOL 第12回：末期患者と家族のケア 第13回：生命倫理 第14回：グループ発表と討議 第15回：質疑応答と試験
授業外における学習（準備学習の内容）	教科書を事前に読んでおくことが望ましい。
授業方法	講義（実習も含む）
評価基準と評価方法	試験（60%）や授業中に出す課題の提出（20%）、平常点（20%）などを総合的に評価する。
教科書	柏木哲夫（著）『死を学ぶ』有斐閣　ISBN4-641-07582-4
参考書	授業中に紹介する。

－　　－　　－

科目区分	心理学科専門教育科目						
科目名	青年期の臨床心理学／臨床心理学研究法V						
担当教員	黒崎　優美						
学期	後期／2nd　semester	曜日・時限	水曜4	配当学年	2～3	単位数	2.0

授業のテーマ	青年期の課題に対する臨床心理学的アプローチによる分析と理解
授業の概要	目的：　青年期に誰もが直面する発達的課題や、青年期特有の教育問題、社会問題、精神疾患等について、臨床心理学的な観点から分析し、理解や援助のあり方を探ります。 概要：　毎回具体的な青年期の課題をテーマとして取り上げ、理論的な側面からだけでなく、臨床的素材や心理療法の実践等についても紹介しながら理解を深めます。
到達目標	青年期の諸問題について理解を深めるだけでなく、自らもその発達段階にある受講生自身の課題としてテーマに取り組み、成長することを目指します。
授業計画	第１回　生涯発達からみた青年期 第２回　青年期の発達課題 第３回　家族と青年期　～自立の時期とあり方～ 第４回　家族の病理と青年期 第５回　対人関係と青年期　～友人・恋人の選択と距離感～ 第６回　対人関係の病理と青年期 第７回　教育と青年期　～学ぶことの臨床心理学的意味～ 第８回　教育課題と青年期 第９回　社会と青年期　～働くことの臨床心理学的意味～就労問題への臨床心理学的理解～ 第10回　青年期における社会的不適応(1)　～社会的ひきこもりの現状と理解～ 第11回　青年期における社会的不適応(2)　～青少年犯罪の現状と理解～ 第12回　青年期と精神疾患(1)　～統合失調症への臨床心理学的理解～ 第13回　青年期と精神疾患(2)　～感情障害への臨床心理学的理解～ 第14回　青年期の精神疾患(3)　～心身症への臨床心理学的理解～ 第15回　まとめと試験
授業外における学習（準備学習の内容）	授業前学習：　次回のテーマに関する課題を出すことがあります。 授業後学習：　授業で紹介する参考文献を読みさらに理解を深めて下さい。また、授業内容や参考文献から自分なりに理解した内容や感じたことなどを文章にまとめてください。試験のとき役立ちます。
授業方法	基本的に講義形式ですが、毎回テーマに関わる作業を行い、授業レポートとして提出してもらいます。
評価基準と評価方法	授業レポート（出席点を含む）　40%、試験 60%
教科書	プリントを配布します。
参考書	適宜紹介します。

－　　－　　－

科目区分	心理学科専門教育科目						
科目名	生理心理学						
担当教員	中尾　美月						
学期	後期／2nd　semester	曜日・時限	火曜3	配当学年	2～3	単位数	2.0

授業のテーマ	こころとからだの関係を科学する。
授業の概要	心はどこにあるのだろうか。それは脳だろうか。緊張すると心臓がどきどきしたり，胃が痛くなったりするということは，心臓や胃にあるのだろうか。それとも身体のどこにも存在しないのだろうか。 この授業では，心と身体の関係について，古典的ともいえる知見から，最新の脳科学研究の成果に至るまで，数多くの興味深いトピックを紹介する。さらに，各トピックに対して自らの意見をまとめることで，人に対するより深い理解と関心が持てるようになることを目指す。
到達目標	心と身体の関係について基礎的な知識が習得できる。 ものごとを科学的に理解し考える力が身につく。
授業計画	第 1講　生理心理学とは　～左脳は論理的，右脳は直感的？～ 第 2講　知覚　～眼帯はよくない？～ 第 3講　記憶　～記憶喪失とは？～ 第 4講　言語　～ことばを失うとき～ 第 5講　発達　～赤ちゃんはワンダーランド～ 第 6講　感情　～徹底検証！吊り橋効果～ 第 7講　ストレス　～α波音楽でリラックス？～ 第 8講　うつ　～うつ病は脳のせい？～ 第 9講　認知症　～認知症はなおらない？～ 第10講　性格　～タイプAにご注意～ 第11講　性差　～男は話を聞かず，女は地図が読めないのか？～ 第12講　睡眠　～快眠を手に入れよう～ 第13講　虚偽検出　～嘘発見器で本当に嘘がわかる？～ 第14講　心と身体　～心はどこにある？～ 第15講　まとめと試験
授業外における学習（準備学習の内容）	授業で学んだ内容を自分の日常生活に生かそうとする姿勢を歓迎する。
授業方法	講義形式で行う。基本的にパワーポイントと配付資料で授業を進める。 毎回，授業の最後にミニ・レポートの作成を求める。
評価基準と評価方法	ミニ・レポート70%，期末試験30%
教科書	テキストは使用しない。毎週，資料を配布する。
参考書	参考文献は必要に応じて適宜紹介する。

－　　－　　－

科目区分	心理学科専門教育科目						
科目名	卒業研究／Graduation　Thesis						
担当教員	安達　圭一郎						
学期	通年／Full　Year	曜日・時限	月曜4	配当学年	4	単位数	8.0

授業のテーマ	心理学演習で作成した研究計画書に従い、卒業論文の作成をおこなう。
授業の概要	研究計画書の見直し、文献の補充、調査用紙（実験道具）などの準備、データの収集と分析といった一連の作業をおこない、論文としての体裁を整えていく。
到達目標	卒業論文を作成する。
授業計画	第1回　オリエンテーション　今後の進め方などの確認 第2回　研究計画書の見直し①　ゼミ内での発表会をおこなう① 第3回　研究計画書の見直し②　ゼミ内での発表会をおこなう② 第4回　調査用紙・実験道具などの準備① 第5回　調査用紙・実験道具などの準備② 第6回　調査用紙・実験道具などの準備③ 第7回　調査用紙・実験道具などの準備④ 第8回　調査・実験などの実施① 第9回　調査・実験などの実施② 第10回　調査・実験などの実施③ 第11回　調査・実験などの実施④ 第12回　データの入力① 第13回　データの入力② 第14回　データの入力③ 第15回　データの入力④ 第16回　統計解析① 第17回　統計解析② 第18回　統計解析③ 第19回　論文作成①　問題・目的を書く（文献の補充） 第20回　論文作成②　方法を書く 第21回　論文作成③　結果を書く（図、表の作成） 第22回　論文作成④　結果を書く（図、表の作成） 第23回　論文作成⑤　考察を書く①（文献の補充） 第24回　論文作成⑥　考察を書く②（文献の補充） 第25回　論文作成⑦　今後の課題を考え、記載する 第26回　論文作成⑧　参考文献の整理と記入 第27回　論文の仕上げ①　学生相互による誤字脱字チェック 第28回　論文の仕上げ②　要約、資料の作成 第29回　論文の発表①　ゼミ内で発表する① 第30回　論文の発表②　ゼミ内で発表する②
授業外における学習（準備学習の内容）	さらなる文献検索、調査・実験などの準備、データ入力、統計解析、論文作成など授業時間外での活動を意欲的におこなう必要がある。
授業方法	ゼミナール方式
評価基準と評価方法	日頃の取り組みの態度60%、論文の評価40%
教科書	
参考書	

－　　－　　－

科目区分	心理学科専門教育科目						
科目名	卒業研究／Graduation　Thesis						
担当教員	大和田　攝子						
学期	通年／Full　Year	曜日・時限	月曜4	配当学年	4	単位数	8.0

授業のテーマ	卒業論文の作成
授業の概要	各自が選んだテーマに沿って研究を計画・実施し、卒業論文としてまとめる。進行状況に応じて中間発表会を行うが、全体的には個別指導が中心となる。
到達目標	卒業論文を作成すること。
授業計画	第1回：オリエンテーション 第2回：研究テーマの決定（1） 第3回：研究テーマの決定（2） 第4回：研究計画の立案（1） 第5回：研究計画の立案（2） 第6回：研究計画の立案（3） 第7回：研究計画の立案（4） 第8回：調査・実験の準備（1） 第9回：調査・実験の準備（2） 第10回：調査・実験の準備（3） 第11回：調査・実験の準備（4） 第12回：調査・実験の準備（5） 第13回：データ収集（1） 第14回：データ収集（2） 第15回：データ収集（3） 第16回：卒論中間発表会 第17回：データの入力と分析（1） 第18回：データの入力と分析（2） 第19回：データの入力と分析（3） 第20回：データの入力と分析（4） 第21回：論文執筆（1） 第22回：論文執筆（2） 第23回：論文執筆（3） 第24回：論文執筆（4） 第25回：論文執筆（5） 第26回：校正（1） 第27回：校正（2） 第28回：校正（3） 第29回：口頭試問(1) 第30回：口頭試問(2)
授業外における学習（準備学習の内容）	調査・実験の実施やデータ処理、論文執筆等は各自のペースで自主的に進めること。
授業方法	演習形式による授業と個別指導
評価基準と評価方法	研究に取り組む姿勢（50%）と卒業論文（50%）
教科書	
参考書	

－　　－　　－

科目区分	心理学科専門教育科目						
科目名	卒業研究／Graduation　Thesis						
担当教員	久津木　文						
学期	通年／Full　Year	曜日・時限	月曜4	配当学年	4	単位数	8.0

授業のテーマ	卒業研究の実施及び論文の作成
授業の概要	心理学演習で練ってきた卒業研究の計画を実施し論文としてまとめていく作業を行う。
到達目標	自らの興味を実験・調査として行い、論文としてまとめられるようになる。
授業計画	第１回　オリエンテーション・卒業研究実施スケジュールの確認 第２回　研究計画の発表（１） 第３回　研究計画の発表（２） 第４回　実験・調査実施準備（１） 第５回　実験・調査実施準備（２） 第６回　実験・調査実施準備（３） 第７回　実験・調査の仮実施（１） 第８回　実験・調査の仮実施（２） 第９回　実験・調査方法の変更・改善（１） 第１０回　実験・調査方法の変更・改善（２） 第１１回　実験・調査の実施（１） 第１２回　実験・調査の実施（２） 第１３回　実験・調査の実施（３） 第１４回　データの入力と処理（１） 第１５回　データの入力と処理（２） 第１６回　データの入力と処理（３） 第１７回　方法、結果の発表（１） 第１８回　方法、結果の発表（２） 第１９回　論文執筆（序論１） 第２０回　論文執筆（序論２） 第２１回　論文執筆（序論３） 第２２回　論文執筆(結果１） 第２３回　論文執筆(結果２） 第２４回　論文執筆(考察１） 第２５回　論文執筆(考察２） 第２６回　問題，考察の発表と討論（１） 第２７回　問題，考察の発表と討論（２） 第２８回　文献リストの作成 第２９回　要約，資料の作成 第３０回　論文の仕上げ
授業外における学習（準備学習の内容）	卒業論文については授業時間で教えられることは限られている。 自主的に進めている実験・調査、論文執筆等の作業の報告や確認作業を授業では 行うため、その他の部分は授業外で自主的に進める必要がある。
授業方法	ゼミナール方式
評価基準と評価方法	自主的に研究を進めていく態度・能力に対する評価　60% 最終論文評価 40%
教科書	

参考書	

－　　－　　－

科目区分	心理学科専門教育科目						
科目名	卒業研究／Graduation　Thesis						
担当教員	黒崎　優美						
学期	通年／Full　Year	曜日・時限	月曜4	配当学年	4	単位数	8.0

授業のテーマ	卒業研究
授業の概要	心理学演習Bに引き続き、卒業研究を行い卒業論文として完成させることを目的とします。
到達目標	設定した一つのテーマについて調べた結果の分析、論文作成という課題を通して、心理学的研究法やテーマについての専門的知識を得るだけでなく、論理的思考力や文章構成力など、社会人として必要な基本的能力の習得を目指す。
授業計画	第１回　今後の研究の進め方について 第２回　データ分析(1)　～データの整理～ 第３回　データ分析(2)　～記述統計～ 第４回　データ分析(3)　～多変量解析１～ 第５回　データ分析(4)　～多変量解析２～ 第６回　データ分析(5)　～作図・作表１～ 第７回　データ分析(6)　～作図・作表２ 第８回　データ分析(7)　～統計資料の読み方について～ 第９回　問題から結果までの発表(1)　～発表資料製作１～ 第10回　問題から結果までの発表(2)　～発表資料作成２～ 第11回　問題から結果までの発表(3)　～発表と全体討議１～ 第12回　問題から結果までの発表(4)　～発表と全体討議２～ 第13回　論文とは 第14回　論文の書き方 第15回　成果と後期に向けての課題 第16回　今後の研究の進め方について 第17回　卒業論文製作(1)　～問題の書き方～ 第18回　卒業論文製作(2)　～問題と仮説～ 第19回　卒業論文製作(3)　～問題と仮説～ 第20回　卒業論文製作(4)　～方法の書き方～ 第21回　卒業論文製作(5)　～方法～ 第22回　卒業論文製作(6)　～結果の書き方～ 第23回　卒業論文製作(7)　～結果～ 第24回　卒業論文製作(8)　～結果～ 第25回　卒業論文製作(9)　～考察の書き方～ 第26回　卒業論文製作(10)　～考察～ 第27回　卒業論文製作(11)　～考察～ 第28回　卒業論文製作(12)　～目次、文献、資料等～ 第29回　卒業論文製作(13)　～仕上げ～ 第30回　卒業研究発表会
授業外における学習（準備学習の内容）	基本的な活動は授業外に行い、授業では進捗状況の確認や修正を行います。
授業方法	ゼミ形式
評価基準と評価方法	授業やチームへの参加・貢献度、成果物の内容を総合的に評価します。
教科書	特にありません。

参考書	適宜紹介します。

－　　－　　－

科目区分	心理学科専門教育科目						
科目名	卒業研究／Graduation　Thesis						
担当教員	坂本　真佐哉						
学期	通年／Full　Year	曜日・時限	月曜4	配当学年	4	単位数	8.0

授業のテーマ	心理学の研究を論文の形でまとめる。
授業の概要	カウンセリングや心理療法、コミュニケーションなどについて各自が選んだテーマについての考察を深め、卒業論文としてまとめることを目指す。進行状況に従い、随時報告、発表させ個別指導を行っていく。
到達目標	自ら選んだテーマについて研究計画を立て、研究を実施し、卒業論文の形としてまとめる。
授業計画	第１回：研究計画とディスカッション（１） 第２回：研究計画とディスカッション（２） 第３回：研究計画とディスカッション（３） 第４回：研究計画とディスカッション（４） 第５回：研究計画とディスカッション（５） 第６回：研究計画とディスカッション（６） 第７回：調査／研究の実際（１） 第８回：調査／研究の実際（２） 第９回：調査／研究の実際（３） 第10回：調査／研究の実際（４） 第11回：調査／研究の実際（５） 第12回：調査／研究の実際（６） 第13回：データ解析とプレゼンテーション（１） 第14回：データ解析とプレゼンテーション（２） 第15回：データ解析とプレゼンテーション（３） 第16回：データ解析とプレゼンテーション（４） 第17回：データ解析とプレゼンテーション（５） 第18回：データ解析とプレゼンテーション（６） 第19回：論文指導（１） 第20回：論文指導（２） 第21回：論文指導（３） 第22回：論文指導（４） 第23回：論文指導（５） 第24回：論文指導（６） 第25回：論文指導（７） 第26回：論文指導（８） 第27回：論文指導（９） 第28回：論文指導（１０） 第29回：論文指導（１１） 第30回：論文指導（１２）
授業外における学習（準備学習の内容）	選んだテーマに関する先行文献を検索し、レビューする。
授業方法	演習形式と個別指導
評価基準と評価方法	平常点および論文の内容80%、口頭試問20%
教科書	
参考書	

－　　－　　－

科目区分	心理学科専門教育科目						
科目名	卒業研究／Graduation　Thesis						
担当教員	寺井　さち子						
学期	通年／Full　Year	曜日・時限	月曜4	配当学年	4	単位数	8.0

授業のテーマ	三年生の終わりに決定した卒業研究について、4月当初に作成した計画に基づき、恙なく研究活動を進めること。
授業の概要	卒業論文の作成 心理学演習で進めてきた子どもに関する学習をもとに、卒業研究のテーマを定め、その作成に取り組む。 具体的には、研究計画書の提出（それについての発表と討論）、調査･実験の実施（前期中の実施を目標とする）、データの整理などであり、個別指導を中心に作成を進めるものとする。
到達目標	学生自身が選んだ卒業研究のテーマについて、一つの論文として完成・提出すること。
授業計画	1. ３年生最終時に決めた卒業論文のテーマについてもう一度整理しまとめる。 2. まとめたヴィジョンをゼミで発表する。 3. テーマに関する先行研究、関連書籍を図書館で調べる。 4. テーマに関する先行研究論文をサイニーで検索する。 5. できる限り多くの論文を集める。 6. 多くの論文を読み込んで選別し、各自のテーマに即したものをピックアップする。 7. ピックアップした先行研究・関連図書から各自の論文の計画に沿った物、活用できるものを選別して概要をまとめ、ゼミで報告する。 8. データ収集法をはじめ仔細にわたる研究計画を作成し、担当教員に報告する。 9. 調査用紙を作成する。 10. 調査用紙あるいは実験内容を完成させ、周りのゼミ仲間などにやってみてもらう。 11. 調査・実験等の実施を行う。 12. 調査・実験の終了に向け補足調査等行う。 13. 収集したローデータを集約する。 14. ローデータをパソコンに入力する。 15. 一次集計結果を出す。 16. 先行研究等を参考にして、一次集計結果を踏まえ必要な検定に取り掛かる。 17. SPSSあるいはエクセルを使用して必要な検定を実施する。 18. 検定の結果を整理する。 19. 一次集計及び検定結果等を表や図に表す。 20. 方法と結果について文書化を進めながら、全体の論旨を思索する。 21. まとめておいた先行研究の結果や論旨を振り返る。 22. 各自の研究結果と先行研究を照らし合わせる。 23. 各自が得た検定結果と仮説を照らし合わせて心理学的分析に入る。 24. 仮説と検定結果を照合したものを結果としてまとめ、文章化する。 25. はじめにから方法、結果、考察と、論文作成を進める。 26. 考察までの論文作成を進め、注や参考文献の整理も行う。 27. 一旦出来上がった論文を担当教員に一度提出し、アドバイスを受ける。 28. アドバイスを受けた点を考慮し、再度論文を建て直す。 29. 修正した論文を担当教員に提出し、最終チェックを受ける。 30. 完成した論文を教務課に提出する。 30.卒業論文の提出。
授業外における学習（準備学習の内容）	卒業論文に必要な先行研究の検索、心理学統計の学習などを各自で行うこと。
授業方法	基本スタイルはゼミの時間内の指導とするが、後期になると場合によっては個別指導で対応する
評価基準と評価方法	平常の研究態度を30%ととし、70%は論文の質や完成度によって評価する
教科書	なし。

参考書	各自が、各々の卒業研究に合わせて図書館の本を使用したりや論文を検索したりする。

－　　－　　－

科目区分	心理学科専門教育科目						
科目名	卒業研究／Graduation　Thesis						
担当教員	土肥　伊都子						
学期	通年／Full　Year	曜日・時限	月曜4	配当学年	4	単位数	8.0

授業のテーマ	卒業論文の作成
授業の概要	心理学演習で取り上げた論文などを参考に、自らの研究をすすめるための指導を行う。具体的には、研究計画（テーマ、仮説、調査・実験方法など）を作成し，それについての発表、討論を行う。後半は、研究計画にしたがって、調査・実験を行い、各自の進行状況にしたがって、個別指導をする。最後に論文を仕上げ、提出する。
到達目標	現実の社会生活に生かせる卒業論文を作成すること。
授業計画	第１回　オリエンテーション，年間計画作成 第２回　文献検索（１） 第３回　文献検索（２） 第４回　研究計画の発表（１） 第５回　研究計画の発表（２） 第６回　質問紙，実験計画の作成（１） 第７回　質問紙，実験計画の作成（２） 第８回　質問紙，実験計画の発表と討論（１） 第９回　質問紙，実験計画の発表と討論（２） 第１０回　調査，実験の実施（１） 第１１回　調査，実験の実施（２） 第１２回　調査，実験の実施（３） 第１３回　データの入力と処理（１） 第１４回　データの入力と処理（２） 第１５回　データの入力と処理（３） 第１６回　論文執筆(方法１) 第１７回　論文執筆(方法２) 第１８回　論文執筆(結果１) 第１９回　論文執筆（結果２） 第２０回　方法，結果の発表と討論（１） 第２１回　方法，結果の発表と討論（２） 第２２回　論文執筆(問題１) 第２３回　論文執筆(問題２) 第２４回　論文執筆(考察１) 第２５回　論文執筆(考察２) 第２６回　問題，考察の発表と討論（１） 第２７回　問題，考察の発表と討論（２） 第２８回　文献リストの作成 第２９回　要約，資料の作成 第３０回　論文の仕上げ
授業外における学習（準備学習の内容）	授業中の討論の内容をまとめ，記録しておく。 自主的に卒業論文を書き進める。
授業方法	ゼミナール形式と個人指導
評価基準と評価方法	平常点１００％
教科書	
参考書	

－　　－　　－

科目区分	心理学科専門教育科目						
科目名	卒業研究／Graduation　Thesis						
担当教員	中村　博文						
学期	通年／Full　Year	曜日・時限	月曜4	配当学年	4	単位数	8.0

授業のテーマ	卒業論文の作成
授業の概要	心理学演習Bで学生各自が決定したテーマについての研究を行い，その成果を卒業論文として提出する。
到達目標	卒業論文の作成。
授業計画	#01：卒論ゼミの進め方についてのオリエンテーション #02：研究テーマの最終検討① #03：研究テーマの最終検討② #04：データ収集法の検討① #05：データ収集法の検討② #06：データ収集法の検討③ #07：データの収集① #08：データの収集② #09：データの収集③ #10：データの収集④ #11：データの収集⑤ #12：データのまとめ① #13：データのまとめ② #14：データのまとめ③ #15：データの分析① #16：データの分析② #17：データの分析③ #18：中間報告 #19：論文執筆① #20：論文執筆② #21：論文執筆③ #22：論文執筆④ #23：論文執筆⑤ #24：卒業論文初稿の提出 #25：論文修正① #26：論文修正② #27：論文修正③ #28：卒業論文の提出 #29：口頭試問① #30：口頭試問②
授業外における学習（準備学習の内容）	各自の研究テーマに沿って，研究を進めること。
授業方法	演習形式。個別指導が中心となる。 研究の進行に沿って，経過報告を行う。
評価基準と評価方法	研究へのコミットの程度（50%），および卒業論文（50%）。
教科書	指定しない。

参考書	適時紹介する。

－　　－　　－

科目区分	心理学科専門教育科目						
科目名	卒業研究／Graduation　Thesis						
担当教員	待田　昌二						
学期	通年／Full　Year	曜日・時限	月曜4	配当学年	4	単位数	8.0

授業のテーマ	卒業論文の作成
授業の概要	人や動物の行動と心理について、学生各自がテーマを定めて論文を完成する。 個別指導のみならず、学生相互の発表と討論を通して研究計画を練り上げ、具体的な 研究を進め、結果の分析と考察を行なっていく。その過程で、プレゼンテーションの 技術も磨いていく。
到達目標	心理学の研究を行い、論文にまとめ発表する。
授業計画	第1回　予備調査（１）分析とグラフ化 第2回　予備調査（２）統計分析 第3回　予備調査（３）考察 第4回　予備調査（４）レポート作成 第5回　卒論テーマの設定 第6回　卒論テーマの関連文献の収集 第7回　卒論テーマの発表 第8回　卒論の調査・実験方法について 第9回　卒論の調査・実験方法の検討 第10回　卒論の問題・方法の発表（１） 第11回　卒論の問題・方法の発表（２） 第12回　卒論の問題・方法の発表（３） 第13回　卒論の調査・実験の実施（１） 第14回　卒論の調査・実験の実施（１） 第15回　卒論の調査・実験の実施（２） 前期終了時に　卒業論文の問題・方法部分を待田まで提出 第16回　データ入力 第17回　データ処理方法 第18回　データ分析 第19回　基本的統計 第20回　統計的検定 第21回　結果のグラフ化（１） 第22回　結果のグラフ化（２） 第23回　結果の文章化（１） 第24回　結果の文章化（２） 第25回　考察（１） 第26回　考察（２） 第27回　引用文献、目次など卒論の全体の体裁 12月後半に卒業論文原稿を待田まで提出 第28回　卒業論文原稿の手直し 卒業論文提出 第29回　卒業論文発表準備 第30回　卒業論文発表会
授業外における学習（準備学習の内容）	研究の立案、実施、分析、論文執筆、発表準備
授業方法	演習
評価基準と評価方法	平常点20%、論文60%、発表20%
教科書	使用しない

参考書	

－　　－　　－

科目区分	心理学科専門教育科目						
科目名	対人コミュニケーション論						
担当教員	待田　昌二						
学期	前期／1st　semester	曜日・時限	水曜4	配当学年	2～3	単位数	2.0

授業のテーマ	対面的コミュニケーション、特に非言語コミュニケーションの理解
授業の概要	我々は人と出会ったときにまず外見から、次いで言葉、表情、動作などから情報を得、同時に自分自身も多くの情報を発している。情報の発信と解読はほとんど無意識的に行われている。このような過程、特に非言語コミュニケーションについて学んでいく。人間のコミュニケーションの能力は進化の過程で獲得してきたものなので、動物のコミュニケーションと比較しながら理解を進める。急速に変化する現代社会は人類の歴史において非常に特殊な社会である。例えば、ほとんど全員が顔見知りというコミュニティーにおける生活から、見知らぬ人間と頻繁にコミュニケーションを行い、新しい関係を作り上げていく生活に変わった。このような現代社会のコミュニケーションの問題点についても考えていく。
到達目標	対面的コミュニケーション、特に非言語コミュニケーションについて理解し日常のやり取りにおいても分析的視点を持てるようになること。
授業計画	１．イントロダクション－非言語的コミュニケーションの重要性 ２．姿かたち－なぜヒトは顔にこだわるのか ３．姿かたち－なぜさまざまな姿かたちがあるのか ４．姿かたち－顔立ちから性格はわかるか ５．姿勢としぐさ－感情の表出 ６．姿勢としぐさ－様々なしぐさ ７．表情－表情とは何か ８．表情－笑い ９．情動反応 10. 視線—動物における重要性、子どもの発達と視線 11. 対人距離 12. 対人距離の続きと第1回試験 13. 印象操作—服装・髪型 14. 会話－会話における非言語的コミュニケーションと第1回試験の解説 15. 質疑応答と第2回試験
授業外における学習（準備学習の内容）	毎回の授業内容を試験に結実させるよう復習し、身近な問題に結び付けて考える。
授業方法	講義
評価基準と評価方法	授業時に毎回提出する小課題５０％と試験５０％
教科書	使用しない
参考書	Ｗｅｂ上で紹介している。「神戸松蔭心理学のページ」で検索するか、松蔭CampusLinkから、「心理学のページ」→「授業関連」→「参考図書紹介(待田)」→「非言語的コミュニケーション」

－　　－　　－

科目区分	心理学科専門教育科目						
科目名	データ処理法						
担当教員	土肥　伊都子						
学期	前期／1st　semester	曜日・時限	火曜2	配当学年	3～4	単位数	2.0

授業のテーマ	SPSSを用いた，データの処理法の習得
授業の概要	社会意識を質問紙によって調査し，分析するための知識を習得することが，本講義の目的である．まず，受講生が各自の調査目的にそって社会意識を概念化し，分析モデルを立て，質問紙を作成する．尺度構成の方法についても習得する．次に，サンプルの調査データ（JGSS)を，受講生自身の問題意識にそって分析し，結果をまとめる．　また，多変量解析についても，JGSSデータをSPSSによって分析することを通して習得する．
到達目標	質問紙データを適切な方法で分析，解釈，報告できるようにすること。
授業計画	第１回　　オリエンテーション　質問紙調査の概要・概念化と分析モデルの作成 第２回　　質問紙調査の手順 第３回　　質問項目の作成と尺度 第４回　　データの入力と加工，JGSSデータについて 第５回　　単純集計 第６回　　グラフ 第７回　　代表値とばらつき 第８回　　複数回答データ 第９回　　クロス集計と関連性を表す統計量 第１０回　　統計的推定と検定の考え方 第１１回　　適合度・独立性・比率の差の検定 第１２回　　t検定と分散分析 第１３回　　重回帰分析 第１４回　　因子分析 第１５回　　筆記試験
授業外における学習（準備学習の内容）	教科書の該当部分を予習しておく。 授業中の課題を各自で再度，データ分析しておく。
授業方法	SPSSを用いた，実習を交えながらの講義
評価基準と評価方法	平常点２０％，定期試験８０％
教科書	岩井紀子・保田時男　「調査データ分析の基礎」　有斐閣
参考書	

－　　－　　－

科目区分	心理学科専門教育科目						
科目名	トラウマの心理学／心理療法V						
担当教員	富田　拓郎						
学期	前期／1st　semester	曜日・時限	金曜4	配当学年	3～4	単位数	2.0

授業のテーマ	辛い出来事を経験したあとの，人間のトラウマや悲嘆についての基礎理論や概念，介入技法，ならびに関連する諸概念を学ぶ。
授業の概要	トラウマと聞けば，学生諸君は何をイメージするだろうか？「こころの傷」，「災害」，「犯罪と被害者」，「死別（喪失）と悲嘆」，「虐待」，「ドメスティック・バイオレンス（ＤＶ）」，「失恋」，「いじめ」，「ハラスメント（セクハラ・パワハラ・モラハラ等）」‥‥‥ここに挙げた以外に，もっとさまざまなものが出てくるかもしれない。しかしトラウマをめぐる課題はそれだけではない。多岐にわたるトラウマの問題について，歴史的経緯からこれまでに明らかになったさまざまな心理学・精神医学的知見を紹介する。同時に，トラウマが引き金となるさまざまなメンタルヘルス上の問題（ＰＴＳＤ，気分障害，不安障害など）とその介入技法，またトラウマを経験した場合の予防的対処法，トラウマティック・ストレスを緩和する要因（レジリエンス）などについて，実証データに基づく，最新の科学的知見（エビデンスベーストな知識）を学ぶ．また近年，ナラティブ理論に基づくアプローチがトラウマ・悲嘆のカウンセリングや心理療法に応用されているが，この点についても紹介する。可能であれば，トラウマ経験者の実際の話や映像を紹介する予定である．そして，諸君自らが，あるいは親しい友だちが，実際にさまざまなトラウマに遭遇した場合，どうすればよいのか，ということも随時触れてみたい。授業では多くの映像資料（ドキュメンタリー，映画など）を用いながら，受講生諸君がこれまでの人生を省みて，今後の人生を歩む上で大いに活かせるような講義にしていく。
到達目標	トラウマや悲嘆とはどういうことかを具体的に学ぶことで，日常生活においてこの現象が身近に生じるものであることを知ると同時に，困難な事態にあってどうすれば人間はこれを乗り越えることができるのかを理解できるようにする。
授業計画	第１回　トラウマとは何か：定義 第２回　トラウマの歴史的経緯と議論 第３回　トラウマ反応とは何か（含 解離など） 第４回　大規模災害によるトラウマ：災害直後から中長期後（東日本大震災を踏まえて） 第５回　犯罪被害者のトラウマ：大規模犯罪 第６回　犯罪被害者のトラウマ：性犯罪 第７回　子どものトラウマ（犯罪，いじめ，虐待など） 第８回　ドメスティック・バイオレンス（ＤＶ） 第９回　遺族（犯罪，災害，事故，自死，幼い子どもの死など）のトラウマ反応と長期化悲嘆 第10回　さまざまなトラウマ関連尺度 第11回　ＰＴＳＤの治療法（薬物治療，持続エクスポージャー法，EMDRなど） 第12回　死別へのナラティヴ・アプローチ（末期患者，遺族など） 第13回　レジリエンス，トラウマ後の『成長』 第14回　トラウマ支援者のストレスと対処法 第15回　まとめ・ふり返り ＜あなたの友達がトラウマを経験したら？＞，レポート提出（予定）
授業外における学習（準備学習の内容）	テキストを事前に読んで参加するのが望ましい。事後学習は必須ではないが，メールによるオプション課題を提示する。詳細は第１回の授業時に指示する。
授業方法	講義（必要に応じて心理テストの体験実習を含む）
評価基準と評価方法	平常点（３０％），レポート（７０％）で評価する。授業後に呈示するオプション課題は任意提出であるが，提出があれば評価対象とする。欠席は減点対象とする。
教科書	『心的トラウマの理解とケア　第２版』　外傷ストレス関連障害に関する研究会　（代表）金 吉晴（編）　じほう（刊）　2006年　2,310円
参考書	『トラウマの臨床心理学』　西澤哲（著）金剛出版（刊）　1999年　3,360円 『トラウマティック・ストレス―PTSDおよびトラウマ反応の臨床と研究のすべて』　ヴァン・デア・コルク他（著）　西澤哲（訳）　誠信書房（刊）　2001年　8,925年 『喪失と悲嘆の心理療法―構成主義からみた意味の探究』　ニーマイアー（編著）　富田拓郎・菊池安希子（監訳）　金剛出版（刊）　2007年　5,040円 『PTSDの臨床研究－理論と実践－』　飛鳥井望（著）　金剛出版（刊）　2008年　3,150円 『性犯罪被害にあうということ』　小林美佳（著）　朝日新聞出版（刊）　2008年　1,260円 『STAND　立ち上がる選択』　大藪順子（著）　いのちのことば社フォレストブックス（刊）　2007年　1,575円 『子ども被害者学のすすめ』　フィンケルホー（編著）　森田ゆり他（訳）　岩波書店（刊）　2010年　2,835円

参考書	『アディクションとしての自傷ー「故意に自分の健康を害する」行動の精神病理ー』　松本俊彦（著）　星和書店（刊）　2011年　2,730円 （他の参考書は必要に応じて，授業時に別途指示する。）

－　　－　　－

科目区分	心理学科専門教育科目						
科目名	認知心理学						
担当教員	中尾　美月						
学期	後期／2nd　semester	曜日・時限	金曜4	配当学年	2～3	単位数	2.0

授業のテーマ	人の認知の特徴やしくみについて理解する。
授業の概要	認知とは「知る」ことである。 人は「こころ」を通して，外界を，他者を，そして自分自身を認知している。 この授業では，認知の基礎的なメカニズムを学ぶことによって，「こころ」の不思議さを実感し， 人に対するより深い理解と関心を持つようになることを目指す。
到達目標	人の認知がいかに主観的なものであり， 対象をありのままに捉えていないということを体験的に理解できるようになる。 さらには「認知が変われば人生が変わる」をキーワードに，よりよく生きるためのヒントが得られる。
授業計画	第 1講　　認知心理学とは 第 2講　　知覚1　知覚の不思議 第 3講　　知覚2　光と色の心理学 第 4講　　知覚3　三次元の世界 第 5講　　記憶1　自由再生の実験からわかること 第 6講　　記憶2　感覚記憶と短期記憶 第 7講　　記憶3　長期記憶 第 8講　　推論と思考　サバイバルゲーム 第 9講　　心の病と認知1　ストレスと認知 第10講　　心の病と認知2　うつと認知 第11講　　心の病と認知3　認知療法 第12講　　社会的認知1　自己認知とアサーション 第13講　　社会的認知2　他者認知 第14講　　まとめと試験 第15講　　試験解説
授業外における学習（準備学習の内容）	授業で学んだ内容を自分の日常生活に生かそうとする姿勢を歓迎する。
授業方法	講義形式で行うが，適宜，体験学習を取り入れる。 基本的にパワーポイントと配付資料で授業を進める。
評価基準と評価方法	期末試験の成績を100点満点とし，欠席回数に応じて2点ずつ減点する。 期末試験では，客観式問題70点，論述式問題30点として採点する。 出席状況は毎回配布する感想カードで確認する。なお，感想カードに書いた内容は評価に影響しない。
教科書	テキストは使用しない。毎週，資料を配布する。
参考書	参考文献は必要に応じて適宜紹介する。

－　　－　　－

科目区分	心理学科専門教育科目						
科目名	発達心理学A／発達心理学I						
担当教員	久津木　文						
学期	前期／1st　semester	曜日・時限	木曜2	配当学年	2	単位数	2.0

授業のテーマ	発達心理学（新生児～幼児期）
授業の概要	人の生涯に渡る変化を扱うのが発達心理学であり。現在、その対象は生まれる前から死に至るまでを含む。本講義では主に、新生児期から幼児期までの発達を中心に扱う。
到達目標	生まれたばかりの赤ちゃんから幼児になるまでの成長過程の主に認知的側面を理解できるようになる。
授業計画	1　オリエンテーション　発達とは 2　発達の仕組みと様相 3　乳幼児発達心理学の研究法 4　遺伝と環境 5　胎児期・新生児期 6　乳幼児期の運動発達 7　乳児期～物理的認知１ 8　乳児期～物理的認知２ 9　乳児期～情動・愛着の発達 10　乳児期～コミュニケーションの芽生え１ 11　乳児期～コミュニケーションの芽生え２ 12　幼児期～社会性の発達 13　幼児期～表象の獲得 14　試験 15　試験の復習
授業外における学習（準備学習の内容）	発達心理学関係の教科書・テキスト（図書館に複数蔵書あり）を読んでおくこと。
授業方法	講義方式
評価基準と評価方法	平常点（授業態度等）30%, 期末テスト70%
教科書	適宜紹介する
参考書	適宜紹介する

－　　－　　－

科目区分	心理学科専門教育科目						
科目名	発達心理学B／発達心理学II						
担当教員	久津木　文						
学期	後期／2nd　semester	曜日・時限	木曜2	配当学年	2	単位数	2.0

授業のテーマ	発達心理学（幼児期～成人、高齢期）
授業の概要	人の生涯に渡る変化を扱うのが発達心理学であり、現在、その対象は生まれる前から死に至るまでを含む。本講義では主に、幼児期のコミュニケーション発達から児童期、そして大人になってからの発達的変化を含む。本講義を履修の際には「発達心理学A」をすでに履修しているか、「発達心理学A」で概説されている内容を図書などで理解しておくことが強く求められる。
到達目標	幼児期の心の理論や社会性の獲得についての理解ができるようになる。 青年期～高齢期の心理的・身体的な衰えを含む変化についての理解ができるようになる。
授業計画	1　オリエンテーション　これまでのおさらい 2　幼児期～言語の獲得１ 3　幼児期～言語の獲得２ 4　心の理論の発達１ 5　心の理論の発達２ 6　児童期～認知・思考 7　児童期～対人関係の形成・道徳の発達 8　青年期～身体と心・アイデンティティの統合 9　成人期～社会経験の開始 10　成人期～結婚と恋愛 11　壮年期～親になること 12　中年期～社会的役割の変化 13　老年期～継続する変化 14　試験 15　試験の復習
授業外における学習（準備学習の内容）	該当分野についてのテキスト・教科書（図書館に複数蔵書あり）を自主的に読んで理解を深めることが必要。
授業方法	講義方式
評価基準と評価方法	平常点（授業態度等）30%, 期末テスト70%
教科書	適宜紹介する
参考書	適宜紹介する

－　　－　　－

科目区分	心理学科専門教育科目						
科目名	被害者支援の心理学						
担当教員	大和田　攝子						
学期	後期／2nd　semester	曜日・時限	金曜4	配当学年	3～4	単位数	2.0

授業のテーマ	被害者支援について学ぶ。
授業の概要	被害者支援において、法的な問題や経済的な問題と同様、心理的な問題が重要な位置を占めることは言うまでもない。しかしながら、被害者の心の問題に対する支援体制は未だ整っていないのが現状である。本講義では、まず被害者支援の歴史や被害者支援の現状を理解する。そして、犯罪被害者への心理的支援に関する基本的枠組みについて学習したうえで、さまざまな犯罪被害における心理的問題とその対応について解説する。さらに援助者が受けるストレスとその対応についても触れる。
到達目標	被害者の心理と支援について具体的に学ぶことで、実際に身近に起こったときにどのようにすればよいか学ぶことができる。
授業計画	第1回：被害者支援とは 第2回：被害者支援の歴史 第3回：被害者の抱える心理的問題 第4回：被害の体験を聴く（ゲスト・スピーカーによる講話） 第5回：被害者カウンセリングの基本 第6回：PTSDの治療 第7回：各論：遺族の心理的問題と対応（1） 第8回：各論：遺族の心理的問題と対応（2） 第9回：各論：性暴力被害者の心理的問題と対応 第10回：各論：虐待被害を受けた人の心理的問題と対応 第11回：各論：DV被害者の心理的問題と対応 第12回：援助者のストレスと対応 第13回：グループ発表と討議（1） 第14回：グループ発表と討議（2） 第15回：質疑応答と定期試験
授業外における学習（準備学習の内容）	参考図書を事前に読んでおくことが望ましい。また、授業ではグループ発表を予定しているので、被害者支援に関する具体的な事例を調べ、まとめておくこと。
授業方法	講義
評価基準と評価方法	試験（60%）や授業中に出す課題の提出（20%）、平常点（20%）などを総合的に評価する。
教科書	プリントを使用する。
参考書	小西聖子（編著）『犯罪被害者のメンタルヘルス』　誠信書房　ISBN978-4-414-40047-2

－　　－　　－

科目区分	心理学科専門教育科目						
科目名	非行・犯罪心理学						
担当教員	福本　純一						
学期	前期／1st　semester	曜日・時限	金曜2	配当学年	3～4	単位数	2.0

授業のテーマ	犯罪と捜査における心理学の知見とその応用
授業の概要	犯罪は人のこころのあり方、他者との関係、取り巻く環境などが複雑に絡みあって引き起こされる負の行為といえる。身近で起きる犯罪を中心に、犯罪発生のメカニズムや心理学的研究について、捜査現場で見聞した事例や体験を交えて、アカデミックな犯罪心理学とは異なった側面から犯罪を考えていく。
到達目標	１　犯罪研究の歴史・理論について基礎的知識を学ぶ ２　犯罪について多面的に考える力を身につける ３　犯罪における心理学的応用の基礎的知識を学ぶ ４　犯罪からの危機管理を学ぶ
授業計画	１　犯罪と心理学のかかわり 犯罪心理学の領域 犯罪研究(犯罪原因論)の歴史 ２　現代の犯罪論 犯罪社会学から環境犯罪学まで ３　現代ニッポンの犯罪事情 犯罪統計と体感治安(安全と安心) ４　身近な犯罪（１）－ひったくり－ ひったくりを環境犯罪学的視点から分析 ５　身近な犯罪（２）－万引き－ 万引きの現状と心理学的背景を考える ６～７ ストーカー犯罪 事例を通してみるストーカーのパターンと心理 ８　だましの手口 オレオレ詐欺に騙されるメカニズム ９　薬物犯罪 薬物依存のメカニズム 10～11 捜査と心理学の応用（１）－プロファイリング－ プロファイリングの理論的基礎 実際の捜査にどのように利用されるているか 12　捜査と心理学の応用（２）－ポリグラフ検査－ 精神生理学的虚偽検出の仕組み 13　捜査と心理学の応用（３）－目撃証言－ 法と心理学 顔記憶の実験研究 14　犯罪被害者 被害者学の流れ 被害者感情と刑罰 15　二次的被害、総括 犯罪報道に求めるもの
授業外における学習（準備学習の内容）	１　日頃からマスメディアやインターネットから社会の動きを知るように努める ２　配付資料を授業内容の補足や見直しに役立てる
授業方法	基本的には講義形式による

評価基準と評価方法	期末レポート５０％、授業中に提出する複数回のミニレポート４０％、授業への取り組み姿勢１０％
教科書	テキストは使用しない。適宜、授業プリントを配布する
参考書	越智啓太『犯罪心理学』(朝倉書店,2005) 大渕憲一『犯罪心理学』(有斐閣,2006)

－　　－　　－

科目区分	心理学科専門教育科目						
科目名	臨床心理学A／臨床心理学I						
担当教員	中村　博文						
学期	前期／1st　semester	曜日・時限	金曜3	配当学年	2	単位数	2.0

授業のテーマ	臨床心理学とは何か
授業の概要	本講義では，様々な臨床心理学の基礎理論を学ぶとともに，具体的な心理学的問題をどのように理解し，その改善にどのように働きかけていくかについて学習する。また，臨床心理行為を行うために必要な教育・訓練，および倫理的問題についても学習する。
到達目標	臨床心理学の大まかな全体像を，把握することができる。
授業計画	#01：オリエンテーション ― 臨床心理学とは何か #02：臨床心理学の基礎理論①：精神分析 #03：臨床心理学の基礎理論②：行動療法 #04：臨床心理学の基礎理論③：認知（行動）療法 #05：臨床心理学の基礎理論④：人間性心理学 #06：臨床心理学の対象①：神経症・精神病 #07：臨床心理学の対象②：人格障害 #08：臨床心理学の対象③：発達障害 #09：ライフサイクルと臨床心理学①：乳幼児期・児童期 #10：ライフサイクルと臨床心理学②：思春期・青年期 #11：ライフサイクルと臨床心理学③：成人期・老年期 #12：臨床心理学的アセスメント #13：臨床心理行為と倫理 #14：まとめ，試験 #15：試験解題
授業外における学習（準備学習の内容）	授業各回のテーマについて，配布資料に記載されている参考文献を読み，理解を深めることを求める。
授業方法	講義形式。 毎回授業の最後に，小レポート（問いに対する回答，質問，感想）の提出を求める。
評価基準と評価方法	毎回の小レポート（14%），および期末試験（86%）により評価する。
教科書	必要に応じて，プリントを配布する。
参考書	適時紹介する。

－　　－　　－

科目区分	心理学科専門教育科目						
科目名	臨床心理学B／臨床心理学II						
担当教員	大和田　攝子						
学期	後期／2nd　semester	曜日・時限	金曜3	配当学年	2	単位数	2.0

授業のテーマ	臨床心理学の基礎を学ぶ。
授業の概要	臨床心理学が対象とするさまざまな心理的問題について広く学習し、それらの見立てに必要な基本的知識の習得を目指す。特に、ライフサイクルの視点から、年齢段階ごとの発達課題と関連して生じやすい問題・病理の特徴をおさえ、さらに具体的な事例を取り上げて、その理解と対応について解説する。
到達目標	臨床心理学が対象とするさまざまな心理的問題について理解できるようになる。
授業計画	第1回：ライフサイクルにおける発達課題 第2回：乳幼児期の心理的問題と対応 第3回：幼児期の心理的問題と対応 第4回：児童期の心理的問題と対応 第5回：思春期の心理的問題と対応 第6回：青年期の心理的問題と対応（1） 第7回：青年期の心理的問題と対応（2） 第8回：青年期の心理的問題と対応（3） 第9回：青年期の心理的問題と対応（4） 第10回：成人期の心理的問題と対応 第11回：中年期の心理的問題と対応 第12回：老年期の心理的問題と対応 第13回：グループ発表と討議（1） 第14回：グループ発表と討議（2） 第15回：質疑応答と試験
授業外における学習（準備学習の内容）	授業で取り上げるテーマは限られているので、それを補完するためにグループ発表を予定している。各自が興味のあるテーマについて調べ、レジュメにまとめること。
授業方法	講義
評価基準と評価方法	試験（60%）や授業中に出す課題の提出（20%）、平常点（20%）などを総合的に評価する。
教科書	プリントを使用する。
参考書	授業中に紹介する。